
児童生徒の安全・安心と学校空間に関する調査

中央教育審議会 初等中等教育分科会 学校安全部会(第4回)
令和3年8月4日

国立教育政策研究所文教施設研究センター
早田清宏

- ・ 学校管理下の事故発生を減らす
 - ・ 防災・防犯上の安全性を高める
- } 学校施設における効果的な取組みは何か？



- ① **学校利用者**（教職員や児童生徒）の安全性に対する**認識を把握**
- ② 学校安全に対する教育委員会や学校の**取組を把握**
- ③ 学校管理下で発生した**事故発生件数**を整理し、学校利用者の**認識や**、教育委員会や学校の**取組状況との関係について考察**

※本調査における安全性とは、事故防止、防犯、防災の3つの観点を指す

※事故発生件数は、日本スポーツ振興センターがまとめた災害共済給付の給付状況等に関するデータ（平成30年度）を活用

<本研究のポイント>

- 学校利用者の視点を重視する
- データ分析に基づき、優先順位付けを意識する
- 建築（ハード）と安全教育（ソフト）の両面から調査分析する

調査対象・方法等

1. 調査対象

- ・全国の自治体から、人口規模を考慮し、無作為に抽出した**188**自治体及び域内の公立小中学校**188**校
- ・セーフティプロモーションスクール（SPS）又はインターナショナルセーフスクール（ISS）に認証された学校が存在する**12**自治体及び**12**校

2. 調査回答者

- 自治体：①学校施設担当者1名、②安全教育担当者1名
学 校：①学校長等の管理職1名、②安全担当教員1名、③養護教員1名、
⑤学校事務職員1名、⑥用務員1名、⑦児童生徒1クラス（小5又は中2）

3. 調査時点 令和2年7月1日現在

4. 調査実施期間 令和2年8月6日～10月23日

5. 調査実施方法

自治体及び学校の教職員に対してはオンラインにより実施
児童生徒に対してはアンケート用紙により実施

6. 回答数

自治体：140自治体241名(70%)
学 校：教職員87校396名(43.5%)、児童生徒84クラス2,359名(42%)

自治体、学校の教職員、児童生徒に対する質問項目は、以下のとおり

<p>学校利用者の認識</p> <p>【学校教職員、児童生徒】</p>	<p>学校内で起きる事故等（日常事故31項目、防犯6項目、防災11項目）について</p> <p>①危険と感ずる度合い（4段階評価）</p> <p>②危険と感ずる理由</p> <p><学校内で起きる事故等の例></p> <p>日常事故：階段での転倒・転落、廊下での衝突</p> <p>防犯：学校周囲に壁やフェンス等がないことによる外部からの不審者の侵入しやすさ</p> <p>防災：外壁や内壁のひび割れ等の異常、棚の上の重量物の落下の危険</p> <p>「何を危険と感ずているか」</p>
<p>教育委員会や学校の取組</p> <p>【自治体、学校教職員】</p>	<p><教育委員会></p> <ul style="list-style-type: none">・安全性確保のために実施している取組・修繕対応予算の確保状況・教育委員会内の関係部署間や他自治体職員と情報交換する機会の有無 等 <p><学校></p> <ul style="list-style-type: none">・学校内の安全点検に参加する人や頻度・学校施設の不具合に関する打合せの実施状況・学校施設の安全性改善への児童生徒・保護者・地域の参画状況 等 <p>「何故、事故等が起きるのか」「危険を回避する術は何か」</p>

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

【教職員】

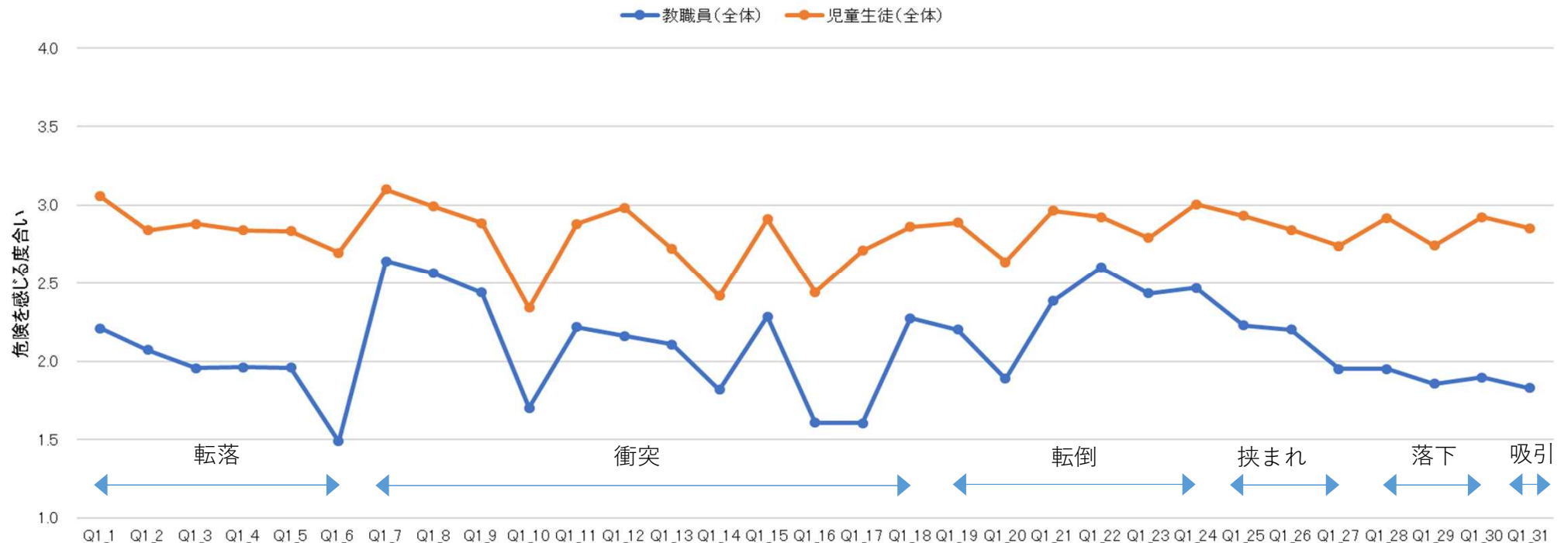
回答区分別・ 事故等区分別 の危険認識状 況 (数値化した 平均値の状 況)	危険認識⇒	回答の数値化と色系統 (危険認識・・・非常に危険だと感じる：4 やや危険だと感じる：3 あまり危険は感じない：2 危険は感じない：1)															
		NJ = 日常事故防止							BH = 防犯				BS = 防災				全体
	対象区分⇒	TR = 転落	ST = 衝突	TT = 転倒	HM = 挟まれ	RK = 落下	KI = 吸引	NJ全体	SY = 接抑	SN = 視認	SB = 設備	BH全体	SI = 設異	SR = 設落	BS全体		
	質問番号⇒	Q1-1~1-6	Q1-7~1-18	Q1-19~1-24	Q1-25~1-27	Q1-28~1-30	Q1-31	Q1-1~1-31	Q1-32~1-34	Q1-35	Q1-36~1-37	Q1-36~1-37	Q1-38~1-44	Q1-45~1-48	Q1-38~1-48	Q1-1~1-48	
	質問数⇒	6問	12問	6問	3問	3問	1問	31問	3問	1問	2問	6問	7問	4問	11問	48問	
回答人数@↓																	
全体	377	2.00	2.12	2.32	2.13	1.90	1.82	2.11	2.70	2.68	2.21	2.55	1.87	2.05	1.92	2.12	
小学校	201	2.02	2.21	2.44	2.21	1.93	1.86	2.18	2.76	2.70	2.28	2.61	1.92	2.05	1.96	2.18	
中学校	176	1.98	2.03	2.19	2.04	1.87	1.77	2.03	2.63	2.66	2.13	2.49	1.81	2.05	1.88	2.05	
新	175	1.92	2.06	2.20	2.06	1.81	1.78	2.03	2.59	2.53	2.03	2.41	1.68	1.94	1.75	2.01	
旧	148	2.04	2.15	2.43	2.19	1.96	1.78	2.16	2.83	2.85	2.41	2.71	2.05	2.07	2.05	2.20	
ISS等以外	345	2.00	2.12	2.31	2.12	1.89	1.81	2.11	2.72	2.68	2.21	2.56	1.85	2.01	1.90	2.11	
ISS等	33	2.01	2.20	2.41	2.25	2.01	1.90	2.18	2.50	2.74	2.14	2.43	2.07	2.42	2.17	2.21	
管理職	84	2.01	2.15	2.37	2.22	1.93	1.81	2.15	2.82	2.83	2.28	2.66	1.87	2.13	1.94	2.16	
安全担当	73	1.91	2.01	2.25	2.07	1.84	1.77	2.02	2.65	2.61	2.18	2.50	1.76	1.93	1.81	2.03	
養護教諭	72	2.20	2.40	2.49	2.47	2.04	2.05	2.34	2.68	2.73	2.16	2.54	2.03	2.13	2.06	2.30	
事務職員	76	1.92	2.05	2.28	1.97	1.87	1.72	2.04	2.74	2.68	2.34	2.60	1.85	2.09	1.91	2.08	
用務員	66	1.91	1.94	2.14	1.87	1.76	1.69	1.94	2.57	2.46	1.99	2.39	1.81	1.85	1.82	1.97	
安全養護兼務	7	2.58	2.76	2.90	2.76	2.57	2.00	2.72	3.00	3.29	2.38	2.85	2.20	2.71	2.34	2.65	

【児童生徒】

回答区分別・ 事故等区分別 の危険認識状 況 (数値化した 平均値の状 況)	危険認識⇒	回答の数値化と色系統 (危険認識・・・非常に危険だと感じる：4 やや危険だと感じる：3 あまり危険は感じない：2 危険は感じない：1)															
		NJ = 日常事故防止							BH = 防犯				BS = 防災				全体
	対象区分⇒	TR = 転落	ST = 衝突	TT = 転倒	HM = 挟まれ	RK = 落下	KI = 吸引	NJ全体	SY = 接抑	SN = 視認	SB = 設備	BH全体	SI = 設異	SR = 設落	BS全体		
	質問番号⇒	Q1-1~1-6	Q1-7~1-18	Q1-19~1-24	Q1-25~1-27	Q1-28~1-30	Q1-31	Q1-1~1-31	Q1-32~1-34	Q1-35	Q1-36~1-37	Q1-36~1-37	Q1-38~1-44	Q1-45~1-48	Q1-38~1-48	Q1-1~1-48	
	質問数⇒	6問	12問	6問	3問	3問	1問	31問	3問	1問	0問	4問	6問	3問	9問	44問	
回答人数@↓										Q36・37除く	Q36・37除く	Q42除く	Q45除く	Q42・45除く	Q36・37・42・45除く		
全体	2,148	2.88	2.79	2.88	2.84	2.86	2.85	2.84	2.76	2.90		2.79	2.30	2.75	2.45	2.76	
小学校	1,105	2.73	2.73	2.80	2.77	2.69	2.69	2.74	2.74	2.93		2.79	2.24	2.66	2.38	2.68	
中学校	1,043	3.03	2.85	2.97	2.92	3.05	3.02	2.94	2.77	2.87		2.79	2.43	2.85	2.57	2.85	
新	985	2.77	2.71	2.80	2.75	2.73	2.72	2.74	2.65	2.82		2.70	2.13	2.62	2.29	2.65	
旧	845	2.90	2.82	2.92	2.88	2.89	2.87	2.87	2.81	2.93		2.84	2.42	2.83	2.56	2.81	
ISS等以外	1,937	2.85	2.77	2.87	2.81	2.84	2.83	2.82	2.75	2.90		2.79	2.28	2.74	2.43	2.74	
ISS等	211	3.15	2.96	3.02	3.08	3.05	2.97	3.03	2.78	2.90		2.81	2.49	2.87	2.62	2.93	

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

日常事故 3 1 項目



Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_12 柱の角や流し台の角などがったものへの衝突	Q1_23 雨が入り込み、渡り廊下等が濡れることによる転倒
Q1_2 2階以上にある外部に面した窓、吹抜け等に面した窓や手すりからの墜落	Q1_13 壁からの突起物(掲示板、黒板、スイッチボックス、フックなど)への衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒
Q1_3 屋上やバルコニー等から手すりの外側に落ちる	Q1_14 階段下など死角への衝突	Q1_25 出入口の扉(教室、職員室、その他の室)における挟まれ事故
Q1_4 手すりのない部分(屋上、庇、バルコニー)からの転落	Q1_15 ガラスへの衝突・破損による事故	Q1_26 窓(教室、その他の室)における挟まれ事故
Q1_5 屋内運動場の上部からの転落	Q1_16 錯覚による透明ガラスへの衝突	Q1_27 防火シャッターや門扉など重量が重い扉における挟まれ事故
Q1_6 天窓に人が乗ることによる落下	Q1_17 鏡への衝突・破損による事故	Q1_28 照明設備や、テレビ等の重量物の落下による事故
Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_18 遊具、鉄棒、支柱、サッカーゴール等への衝突	Q1_29 出入口付近等、上部からの落下物や落雪等による事故
Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_19 床の段差やでっぱりなどによる転倒	Q1_30 特別教室での危険な薬品や鋭利な工具等の落下及び棚の転倒
Q1_9 廊下と教室等の出入口での衝突	Q1_20 床のはがれや割れ等の損傷による転倒	Q1_31 プールの排水溝への吸引事故
Q1_10 廊下の突きあたりでの衝突	Q1_21 手洗い、流しの周辺の濡れた床での転倒	
Q1_11 階段での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

日常事故の中で危険認識の高い項目

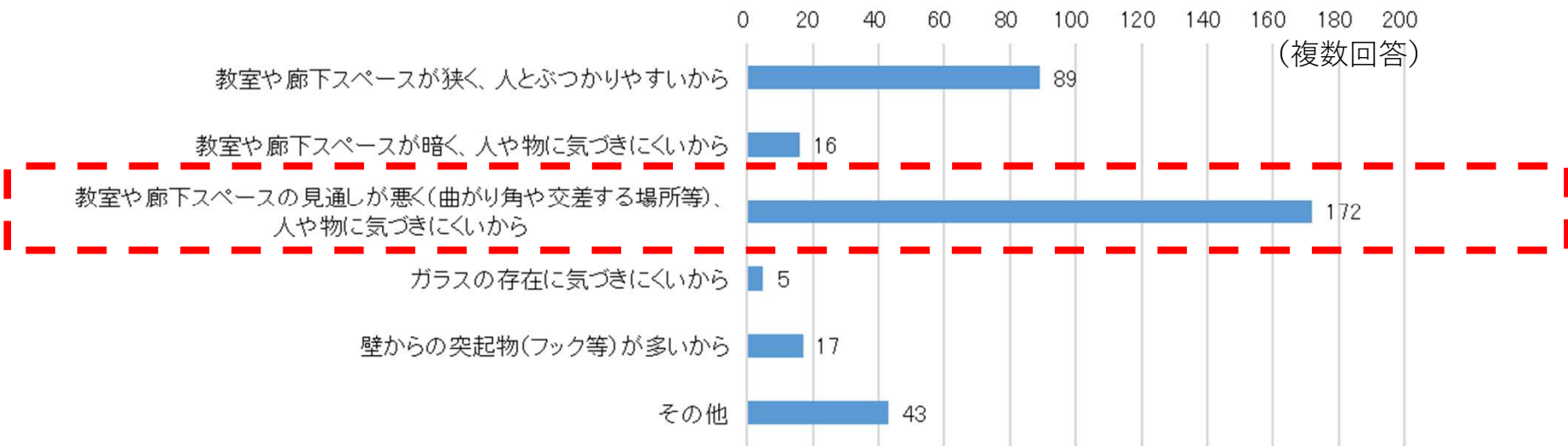
		1	2	3	4	5
全体	教職員 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_9 廊下と教室等(職員室や便所等も含む)の出入り口での衝突
		125%	123%	121%	117%	116%
	児童生徒 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_12 柱の角や流し台の角などがったものへの衝突
		109%	108%	106%	105%	105%
小学校	教職員 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_9 廊下と教室等(職員室や便所等も含む)の出入り口での衝突
		126%	123%	122%	120%	116%
	児童生徒 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_12 柱の角や流し台の角などがったものへの衝突	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_21 手洗い、流しの周辺の濡れた床での転倒
		113%	110%	108%	107%	107%
中学校	教職員 (対平均)	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_23 雨が入り込み、渡り廊下等が濡れることによる転倒	Q1_9 廊下と教室等(職員室や便所等も含む)の出入り口での衝突
		125%	124%	119%	117%	115%
	児童生徒 (対平均)	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_28 照明設備や、テレビ等の重量物の落下による事故	Q1_30 特別教室での危険な薬品や鋭利な工具等の落下及び棚の転倒	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落
		106%	106%	106%	105%	105%
新	教職員 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_23 雨が入り込み、渡り廊下等が濡れることによる転倒
		125%	124%	122%	117%	114%
	児童生徒 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_12 柱の角や流し台の角などがったものへの衝突
		112%	110%	108%	106%	106%
旧	教職員 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_9 廊下と教室等(職員室や便所等も含む)の出入り口での衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒
		125%	123%	121%	117%	116%
	児童生徒 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_28 照明設備や、テレビ等の重量物の落下による事故	Q1_21 手洗い、流しの周辺の濡れた床での転倒
		107%	106%	105%	105%	105%

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

教室や廊下での、人や物との衝突を危険と感じる理由

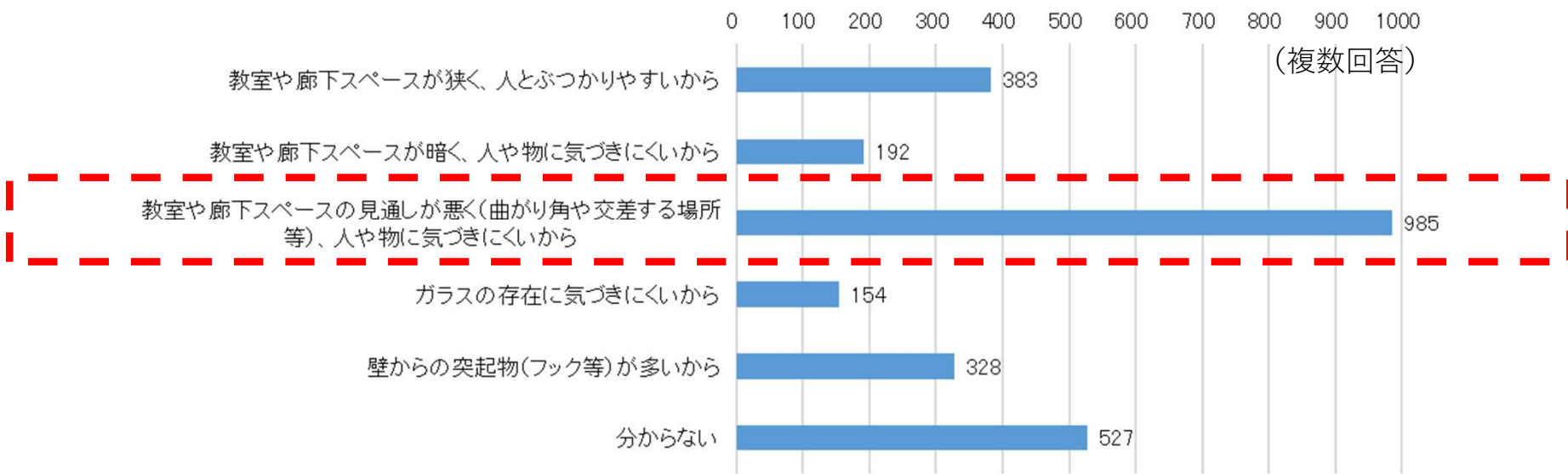
【管理職、安全担当教員、養護教諭、学校事務職員、用務員】

n=266 (人)



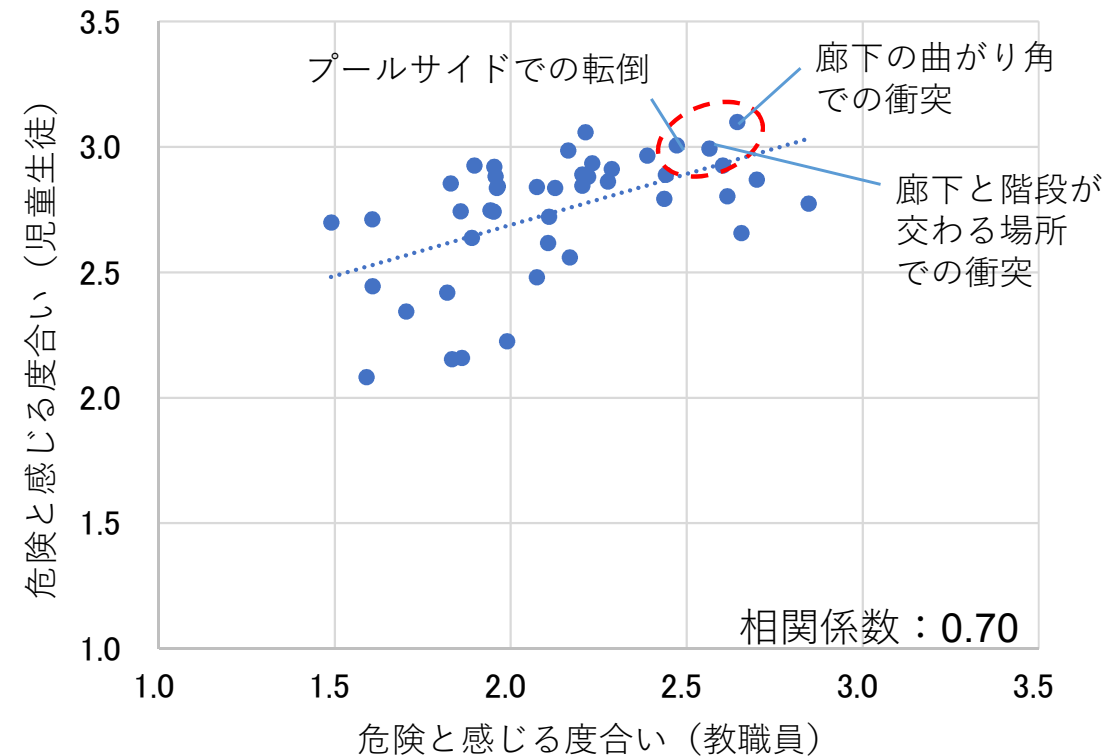
【児童生徒】

n=2359 (人)



調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

- 教職員と比較して、児童生徒の方が危険と感じる度合いが高い傾向
- 小学5年生と比較して、中学2年生の方が危険と感じる度合いが高い傾向
- 日常事故、防犯、防災ともに、教職員が危険と感じることは、児童生徒も危険と感じる傾向
- 日常事故では、「廊下の曲がり角での衝突」「廊下と階段が交わる場所での衝突」「プールサイドでの転倒」に対して危険と感じる度合いが高い傾向
- 校舎の築年数で見ると、近年、改築・大規模改造等を行った学校と比較して、築年数25年以上の学校の方が危険と感じる度合いが高い傾向



教職員が危険と感じる度合いと児童生徒が危険と感じる度合いの相関関係 (日常事故31項目)

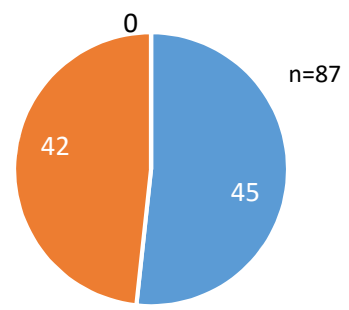
事故が起きる理由

- ① 学校利用者の点検・不具合の把握が不十分である
（気づきの不足）
- ② 把握した不具合について、学校内、又は、学校と教育委員会との間の伝達が不十分である（問題意識共有の不足）
- ③ 予算等の事情により、改善策を実行できない（実行の不足）

調査結果 (② 教育委員会や学校の取組 一何故、事故等が起きるのか)

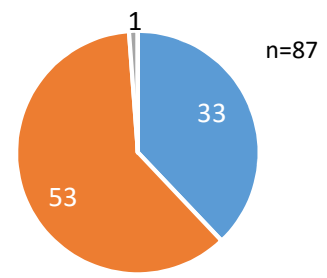
- 約 8～9 割の学校が、月に 1 回以上、定期的安全点検を実施しており、全ての管理職が、学校内の不具合を十分に、又は、ある程度把握できていると認識
- 学校施設の不具合について、9 割以上の学校が、年に 1 回以上、定期的な打ち合わせの機会を持ち、学期に 1 回以上、随時、修繕の要望を実施
- ほぼ全ての管理職が、教育委員会と問題意識を共有できている、又は、ある程度共有できていると認識
- 学校で執行可能な年間の修繕額について、約 6 割の管理職が、十分ではない、又は、あまり十分ではないと認識
- 約 8 割の管理職が、学校施設の不具合について、迅速に対応がなされている、又は、概ね対応がなされていると認識

【管理職】
どの程度、学校内の不具合を把握しているか (人)



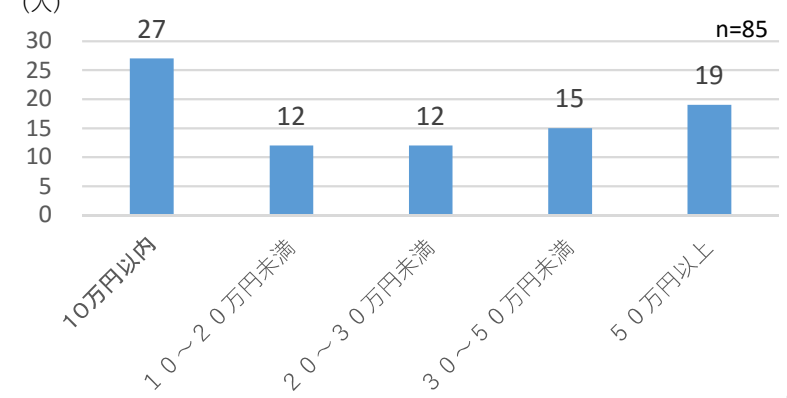
■十分に把握できている ■ある程度把握できている
■把握できている自信がない

【管理職】
施設の不具合に関して、教育委員会と問題意識を共有できているか (人)



■共有できている ■ある程度共有できている
■あまり共有できていない ■共有できていない
■わからない

【管理職】
学校で執行可能な修繕額 (年間)



危険を回避する術

- ① 児童生徒が主体的に参画する
- ② 保護者や地域住民が主体的に参画する
- ③ 学校内で発生した児童生徒の怪我のデータを見える化し、関係者と共有する
- ④ 他自治体や他校から情報収集する
- ⑤ 学校内での取組を継続する

- 児童生徒が校内安全マップを作成している学校が約2割であり、これらの学校では、教職員と児童生徒が危険と感じる項目や度合いが近づく傾向が見られた（共通認識が得られる効果）
- 直近1年で、学校の安全性について、保護者や地域住民と一緒に考えたり、意見交換を行っている学校は約6割であり、そのうちの半数の学校が、保護者や地域住民の参画により、学校職員の安全に関わる業務を、効果的・効率的に行えるようになったと認識
- 約9割の学校が、養護教諭等が学校内で起きた児童生徒の怪我の状況をデータとしてまとめていたが、まとめたデータの活用については、学校によって取組状況の差が見られた
- 約4分の3の学校が、学校施設の安全・安心について、約9割の学校が、安全教育について、他校の職員と情報交換する機会がある
- 約4割の自治体が、学校施設の安全・安心について、約7割の自治体が、安全教育について、他自治体の職員と情報交換する機会がある

調査結果 (③事故発生件数と学校利用者の認識との関係)

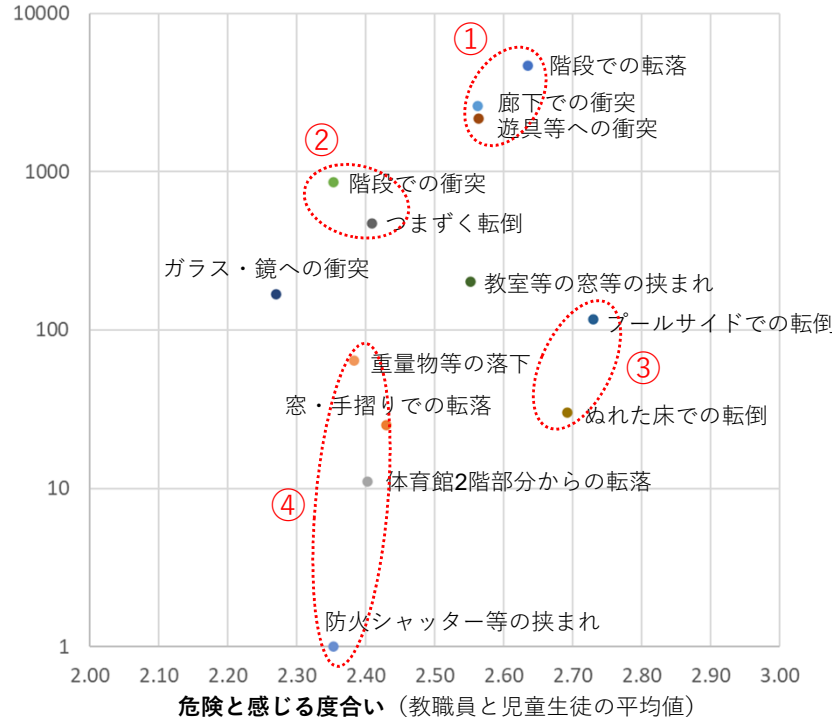
日本スポーツ振興センターがまとめている災害共済給付の給付状況等に関するデータ（平成30年度）を活用して、実際に発生した事故件数と、各種事故に対して学校利用者が危険と感じる度合いとの関係について分析を行った

■ 調査対象自治体及び学校の事故発生件数（平成30年度）

	階段での転落	窓手摺り転落	体育館2階部分転落	天窗転落	廊下での衝突	階段での衝突	ガラス・鏡衝突	遊具等衝突	つまづく転倒	ぬれている転倒	プールサイド転倒	教室の窓等挟まれ	防火シャッター等挟まれ	重量物等落下	プール排水溝吸引	合計	公立小中学校数	事故件数1校あたり
140自治体	4,660	25	11	0	2,586	859	168	2,163	470	30	117	201	1	64	0	11,355	7,199	1.58
	41%	0%	0%	0%	23%	8%	1%	19%	4%	0%	1%	2%	0%	1%	0%			
87校	45	0	0	0	31	9	2	18	5	1	1	1	0	0	0	113	-	1.30
	40%	0%	0%	0%	27%	8%	2%	16%	4%	1%	1%	1%	0%	0%				

■ 事故発生件数（対数表示）と学校利用者が危険と感じる度合いとの関係

事故発生件数（対数）



<グループ①>
 学校利用者が**危険と感じる度合い**が比較的高く、実際の**事故発生件数**が比較的多い事故としては、「**階段での転落**」「**廊下での衝突**」「**遊具等への衝突**」

<グループ②>
 学校利用者が**危険と感じる度合い**が比較的低いが、実際の**事故発生件数**が比較的多い事故としては、「**階段での衝突**」「**床の段差等につまづくことによる転倒**」

グループ①やグループ②の事故に対して、優先的に安全対策を行うことが、事故発生を抑える上で有効であると考えられる

一方、「防火シャッター等の挟まれ」「天窗からの転落」等、事故発生件数が比較的小なくても、**一度、起きると重傷につながるリスクの高い事故**もある。危険と感じる度合いと事故重症度との関係について、分析することが今後の課題

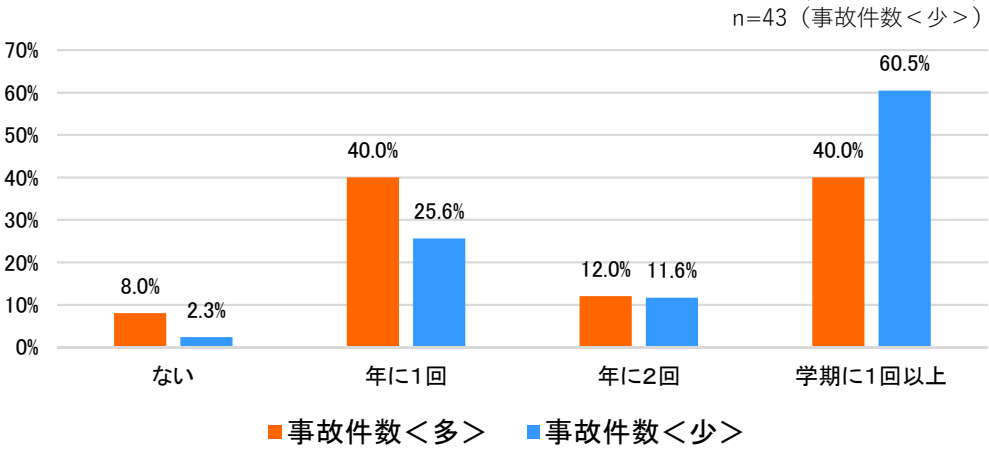
調査結果 (③事故発生件数と取組状況との関係)

事故発生件数が比較的多い自治体・学校と、比較的小さい自治体・学校との間で、学校の安全・安心に関して、どのような取組の差が見られるかについて分析を行った

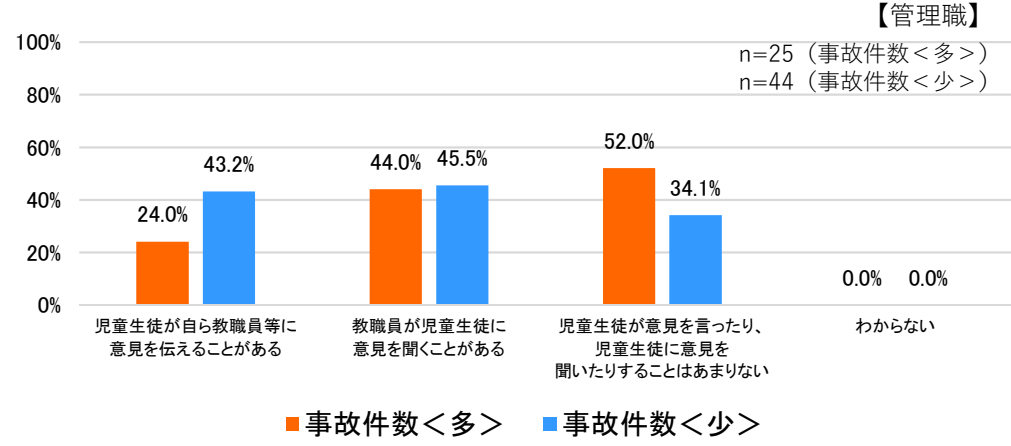
- 事故発生件数が比較的多い自治体 : 平成30年度に医療費の請求があった事故発生件数が、**1校あたり2件以上**であった**22自治体** (15.7%)
- 事故発生件数が比較的小さい自治体 : 平成30年度に医療費の請求があった事故発生件数が、**1校あたり1件未満**であった**50自治体** (35.7%)
- 事故発生件数が比較的多い学校 : 平成30年度に医療費の請求があった事故発生件数が、**2件以上**であった**25学校** (28.7%)
- 事故発生件数が比較的小さい学校 : 平成30年度に医療費の請求があった事故発生件数が、**1件未満**であった**44学校** (50.6%)

事故が多い学校と事故が少ない学校との間で差が見られた認識や取組

学校施設の不具合に関する学校管理職と教育委員会との定期的な打合せの頻度



学校施設の安全性の改善に関して、児童生徒と教職員等が意見交換する機会があるか



本研究を通じて

- ① 学校利用者の安全性に対する認識を把握
- ② 学校利用者の安全性に対する認識と、実際の事故発生件数との関係进行分析し、安全対策の優先順位について考察
- ③ 事故発生件数が比較的多い自治体・学校と、比較的小さい自治体・学校との取組を比較し、事故発生件数の減少に繋がる効果的な取組について考察

今後の課題として

- ① 本研究で明らかになったポイントについて、どのように取り組めばよいか、事例の検証等により明らかにしていく

データ集

- | | | |
|-----------------------|----------------|------|
| ① 学校利用者の認識 | —何を危険と感じているか— | P.18 |
| ② 教育委員会や学校の取組 | —何故、事故等が起きるのか— | P.27 |
| | —危険を回避する術は何か— | P.35 |
| ③ 事故発生件数と学校利用者の認識との関係 | | P.46 |
| 事故発生件数と取組状況との関係 | | P.47 |

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

【教職員】

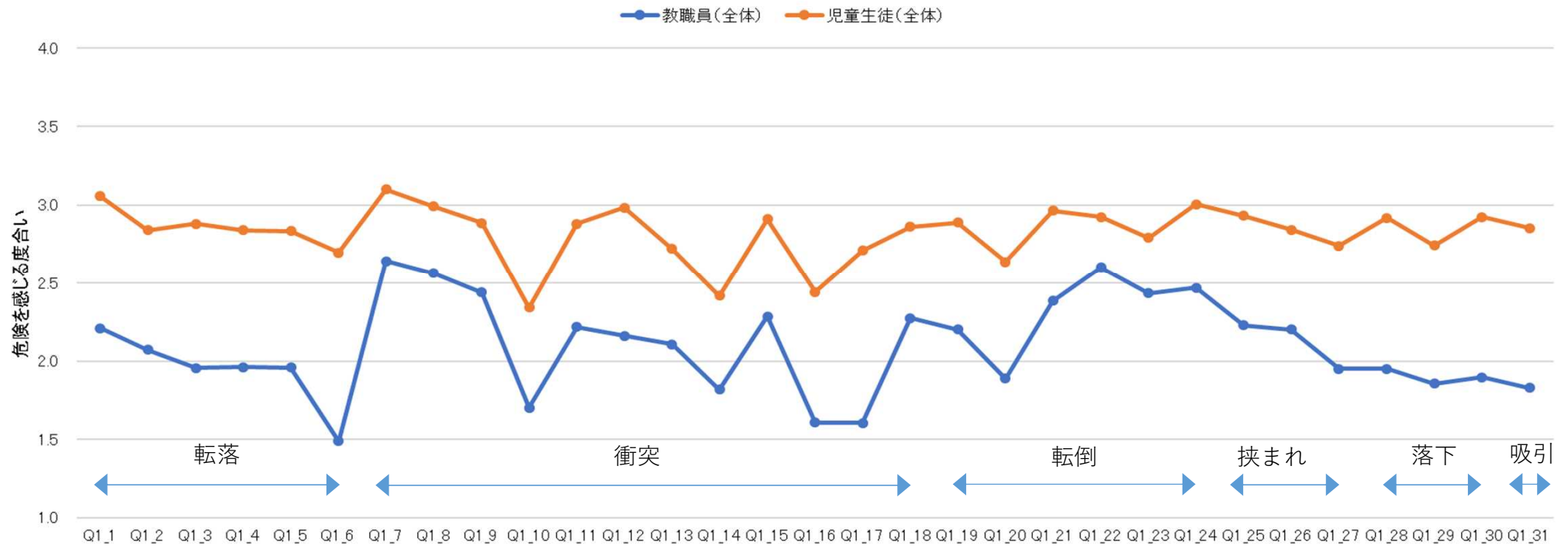
回答区分別・ 事故等区分別 の危険認識状 況 (数値化した 平均値の状 況)	危険認識⇒	回答の数値化と色系統 (危険認識・・・非常に危険だと感じる：4 やや危険だと感じる：3 あまり危険は感じない：2 危険は感じない：1)														
		NJ = 日常事故防止						BH = 防犯				BS = 防災				全体
	対象区分⇒	TR = 転落	ST = 衝突	TT = 転倒	HM = 挟まれ	RK = 落下	KI = 吸引	NJ全体	SY = 接抑	SN = 視認	SB = 設備	BH全体	SI = 設異	SR = 設落	BS全体	
	質問番号⇒	Q1-1~1-6	Q1-7~1-18	Q1-19~1-24	Q1-25~1-27	Q1-28~1-30	Q1-31	Q1-1~1-31	Q1-32~1-34	Q1-35	Q1-36~1-37	Q1-36~1-37	Q1-38~1-44	Q1-45~1-48	Q1-38~1-48	Q1-1~1-48
	質問数⇒	6問	12問	6問	3問	3問	1問	31問	3問	1問	2問	6問	7問	4問	11問	48問
回答人数@↓																
全体	377	2.00	2.12	2.32	2.13	1.90	1.82	2.11	2.70	2.68	2.21	2.55	1.87	2.05	1.92	2.12
小学校	201	2.02	2.21	2.44	2.21	1.93	1.86	2.18	2.76	2.70	2.28	2.61	1.92	2.05	1.96	2.18
中学校	176	1.98	2.03	2.19	2.04	1.87	1.77	2.03	2.63	2.66	2.13	2.49	1.81	2.05	1.88	2.05
新	175	1.92	2.06	2.20	2.06	1.81	1.78	2.03	2.59	2.53	2.03	2.41	1.68	1.94	1.75	2.01
旧	148	2.04	2.15	2.43	2.19	1.96	1.78	2.16	2.83	2.85	2.41	2.71	2.05	2.07	2.05	2.20
ISS等以外	345	2.00	2.12	2.31	2.12	1.89	1.81	2.11	2.72	2.68	2.21	2.56	1.85	2.01	1.90	2.11
ISS等	33	2.01	2.20	2.41	2.25	2.01	1.90	2.18	2.50	2.74	2.14	2.43	2.07	2.42	2.17	2.21
管理職	84	2.01	2.15	2.37	2.22	1.93	1.81	2.15	2.82	2.83	2.28	2.66	1.87	2.13	1.94	2.16
安全担当	73	1.91	2.01	2.25	2.07	1.84	1.77	2.02	2.65	2.61	2.18	2.50	1.76	1.93	1.81	2.03
養護教諭	72	2.20	2.40	2.49	2.47	2.04	2.05	2.34	2.68	2.73	2.16	2.54	2.03	2.13	2.06	2.30
事務職員	76	1.92	2.05	2.28	1.97	1.87	1.72	2.04	2.74	2.68	2.34	2.60	1.85	2.09	1.91	2.08
用務員	66	1.91	1.94	2.14	1.87	1.76	1.69	1.94	2.57	2.46	1.99	2.39	1.81	1.85	1.82	1.97
安全養護兼務	7	2.58	2.76	2.90	2.76	2.57	2.00	2.72	3.00	3.29	2.38	2.85	2.20	2.71	2.34	2.65

【児童生徒】

回答区分別・ 事故等区分別 の危険認識状 況 (数値化した 平均値の状 況)	危険認識⇒	回答の数値化と色系統 (危険認識・・・非常に危険だと感じる：4 やや危険だと感じる：3 あまり危険は感じない：2 危険は感じない：1)														
		NJ = 日常事故防止						BH = 防犯				BS = 防災				全体
	対象区分⇒	TR = 転落	ST = 衝突	TT = 転倒	HM = 挟まれ	RK = 落下	KI = 吸引	NJ全体	SY = 接抑	SN = 視認	SB = 設備	BH全体	SI = 設異	SR = 設落	BS全体	
	質問番号⇒	Q1-1~1-6	Q1-7~1-18	Q1-19~1-24	Q1-25~1-27	Q1-28~1-30	Q1-31	Q1-1~1-31	Q1-32~1-34	Q1-35	Q1-36~1-37	Q1-36~1-37	Q1-38~1-44	Q1-45~1-48	Q1-38~1-48	Q1-1~1-48
	質問数⇒	6問	12問	6問	3問	3問	1問	31問	3問	1問	0問	4問	6問	3問	9問	44問
回答人数@↓										Q36・37除く	Q36・37除く	Q42除く	Q45除く	Q42・45除く	Q36・37・42・45除く	
全体	2,148	2.88	2.79	2.88	2.84	2.86	2.85	2.84	2.76	2.90		2.79	2.30	2.75	2.45	2.76
小学校	1,105	2.73	2.73	2.80	2.77	2.69	2.69	2.74	2.74	2.93		2.79	2.24	2.66	2.38	2.68
中学校	1,043	3.03	2.85	2.97	2.92	3.05	3.02	2.94	2.77	2.87		2.79	2.43	2.85	2.57	2.85
新	985	2.77	2.71	2.80	2.75	2.73	2.72	2.74	2.65	2.82		2.70	2.13	2.62	2.29	2.65
旧	845	2.90	2.82	2.92	2.88	2.89	2.87	2.87	2.81	2.93		2.84	2.42	2.83	2.56	2.81
ISS等以外	1,937	2.85	2.77	2.87	2.81	2.84	2.83	2.82	2.75	2.90		2.79	2.28	2.74	2.43	2.74
ISS等	211	3.15	2.96	3.02	3.08	3.05	2.97	3.03	2.78	2.90		2.81	2.49	2.87	2.62	2.93

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

日常事故 3 1 項目



Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_12 柱の角や流し台の角などがったものへの衝突	Q1_23 雨が入り込み、渡り廊下等が濡れることによる転倒
Q1_2 2階以上にある外部に面した窓、吹抜け等に面した窓や手すりからの墜落	Q1_13 壁からの突起物(掲示板、黒板、スイッチボックス、フックなど)への衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒
Q1_3 屋上やバルコニー等から手すりの外側に落ちる	Q1_14 階段下など死角への衝突	Q1_25 出入口の扉(教室、職員室、その他の室)における挟まれ事故
Q1_4 手すりのない部分(屋上、庇、バルコニー)からの転落	Q1_15 ガラスへの衝突・破損による事故	Q1_26 窓(教室、その他の室)における挟まれ事故
Q1_5 屋内運動場の上部からの転落	Q1_16 錯覚による透明ガラスへの衝突	Q1_27 防火シャッターや門扉など重量が重い扉における挟まれ事故
Q1_6 天窓に人が乗ることによる落下	Q1_17 鏡への衝突・破損による事故	Q1_28 照明設備や、テレビ等の重量物の落下による事故
Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_18 遊具、鉄棒、支柱、サッカーゴール等への衝突	Q1_29 出入口付近等、上部からの落下物や落雪等による事故
Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_19 床の段差やでっぱりなどによる転倒	Q1_30 特別教室での危険な薬品や鋭利な工具等の落下及び棚の転倒
Q1_9 廊下と教室等の出入口での衝突	Q1_20 床のはがれや割れ等の損傷による転倒	Q1_31 プールの排水溝への吸引事故
Q1_10 廊下の突きあたりでの衝突	Q1_21 手洗い、流しの周辺の濡れた床での転倒	
Q1_11 階段での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

日常事故の中で危険認識の高い項目

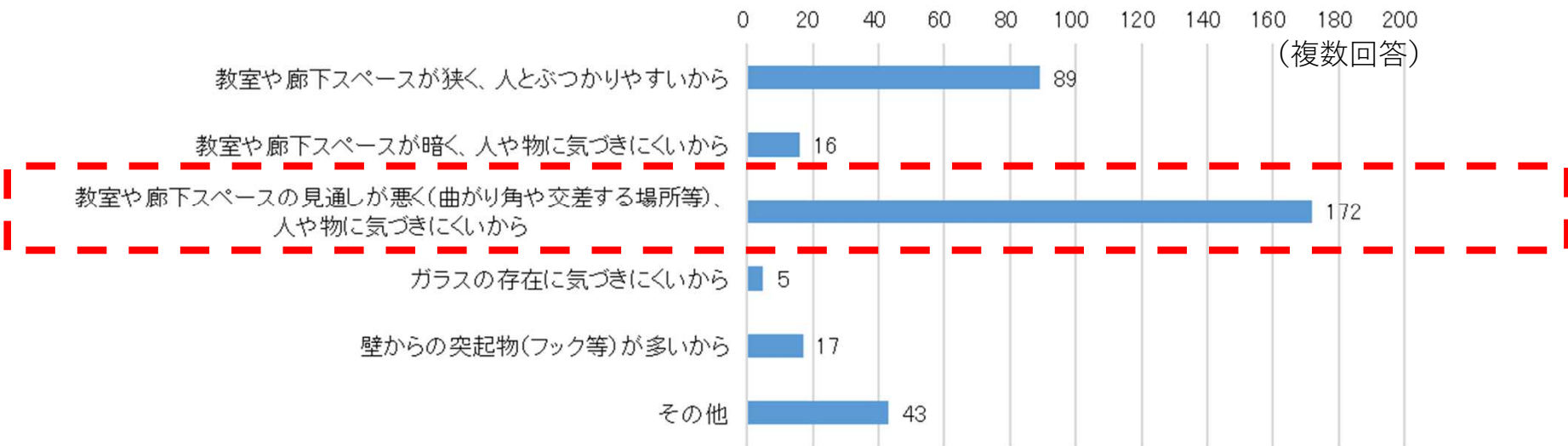
		1	2	3	4	5
全体	教職員 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_9 廊下と教室等(職員室や便所等も含む)の出入り口での衝突
		125%	123%	121%	117%	116%
	児童生徒 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_12 柱の角や流し台の角などがったものへの衝突
		109%	108%	106%	105%	105%
小学校	教職員 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_9 廊下と教室等(職員室や便所等も含む)の出入り口での衝突
		126%	123%	122%	120%	116%
	児童生徒 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_12 柱の角や流し台の角などがったものへの衝突	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_21 手洗い、流しの周辺の濡れた床での転倒
		113%	110%	108%	107%	107%
中学校	教職員 (対平均)	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_23 雨が入り込み、渡り廊下等が濡れることによる転倒	Q1_9 廊下と教室等(職員室や便所等も含む)の出入り口での衝突
		125%	124%	119%	117%	115%
	児童生徒 (対平均)	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_28 照明設備や、テレビ等の重量物の落下による事故	Q1_30 特別教室での危険な薬品や鋭利な工具等の落下及び棚の転倒	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落
		106%	106%	106%	105%	105%
新	教職員 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_23 雨が入り込み、渡り廊下等が濡れることによる転倒
		125%	124%	122%	117%	114%
	児童生徒 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_12 柱の角や流し台の角などがったものへの衝突
		112%	110%	108%	106%	106%
旧	教職員 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_22 結露により濡れた床での転倒	Q1_8 廊下と階段が交わる場所での衝突	Q1_9 廊下と教室等(職員室や便所等も含む)の出入り口での衝突	Q1_24 プールサイドでの転倒
		125%	123%	121%	117%	116%
	児童生徒 (対平均)	Q1_7 廊下の曲がり角での衝突	Q1_1 階段での転倒・転落	Q1_24 プールサイドでの転倒	Q1_28 照明設備や、テレビ等の重量物の落下による事故	Q1_21 手洗い、流しの周辺の濡れた床での転倒
		107%	106%	105%	105%	105%

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

教室や廊下での、人や物との衝突を危険と感じる理由

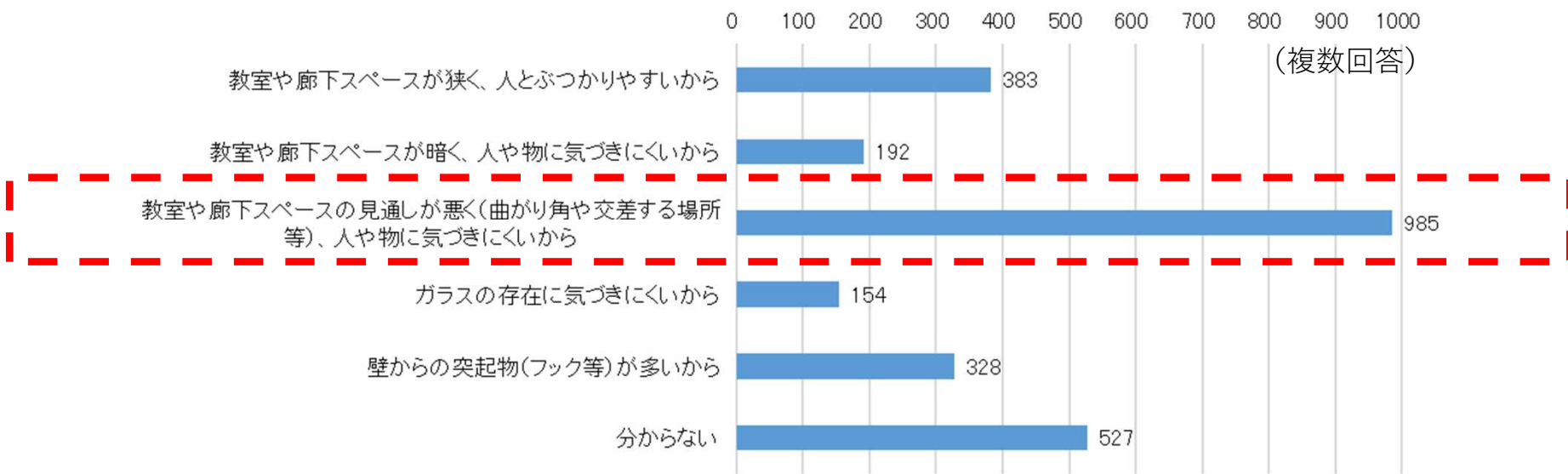
【管理職、安全担当教員、養護教諭、学校事務職員、用務員】

n=266 (人)



【児童生徒】

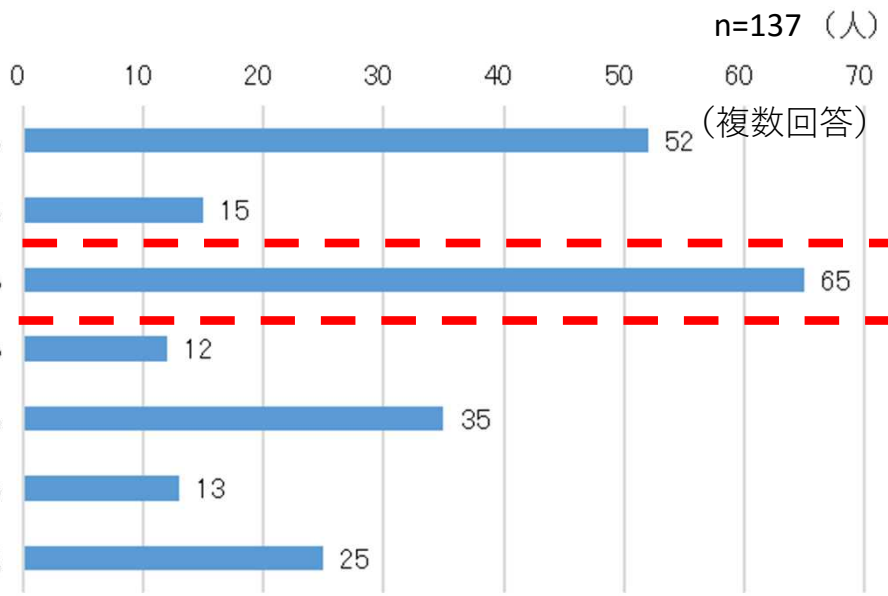
n=2359 (人)



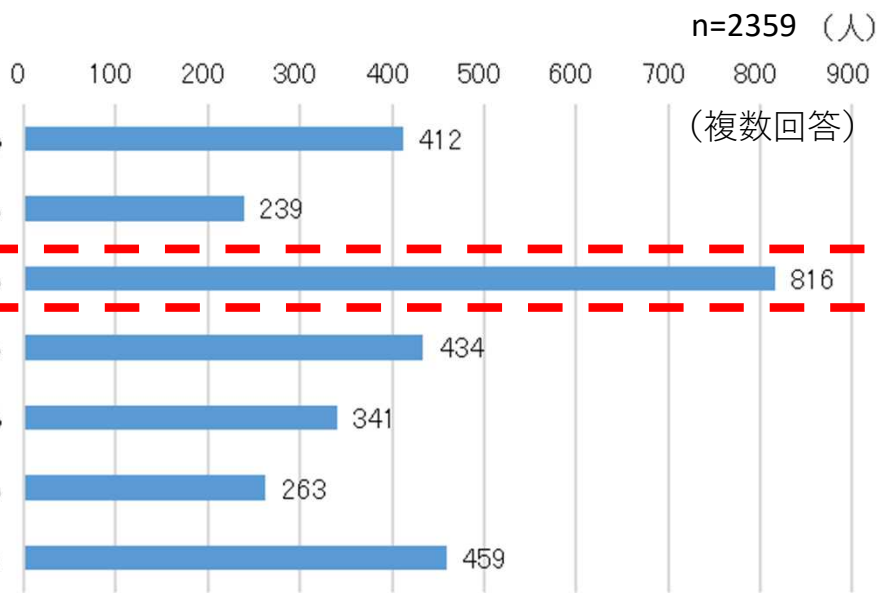
調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

階段での転倒・転落を危険と感じる理由

【管理職、安全担当教員、養護教諭、学校事務職員、用務員】



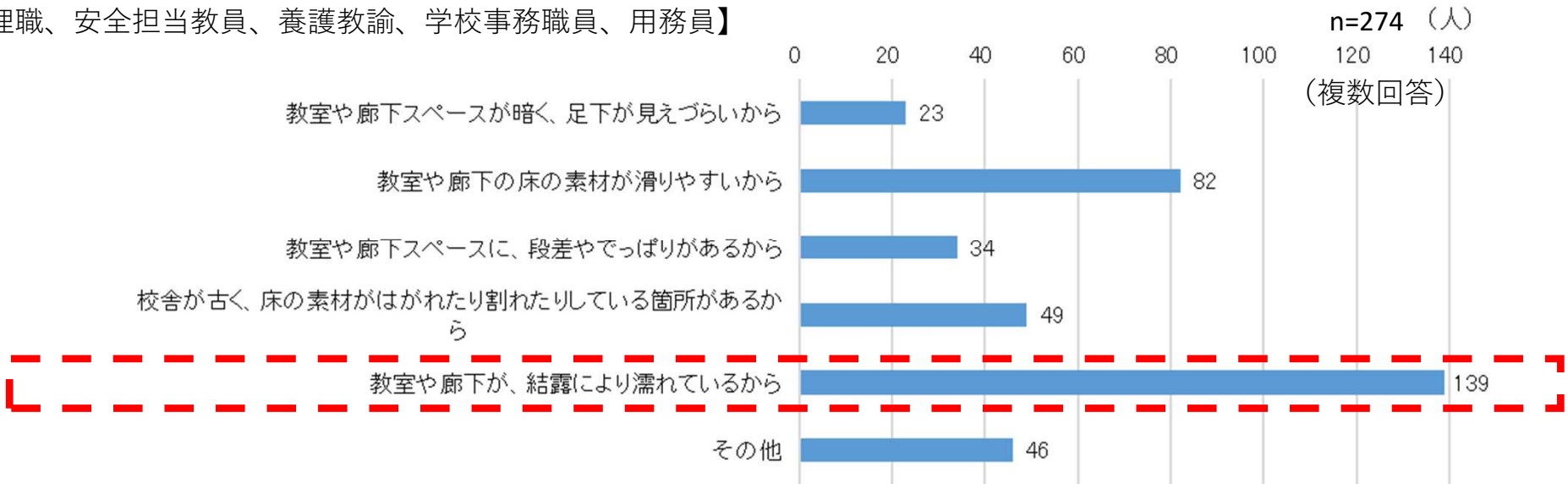
【児童生徒】



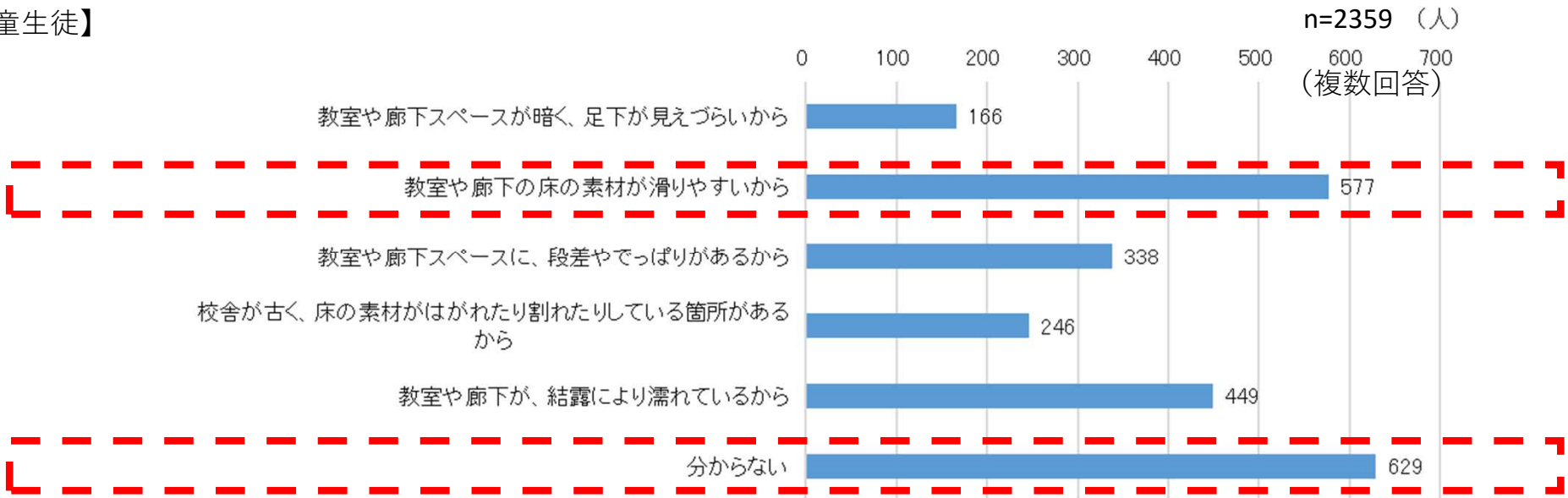
調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

教室や廊下での転倒を危険と感じる理由

【管理職、安全担当教員、養護教諭、学校事務職員、用務員】

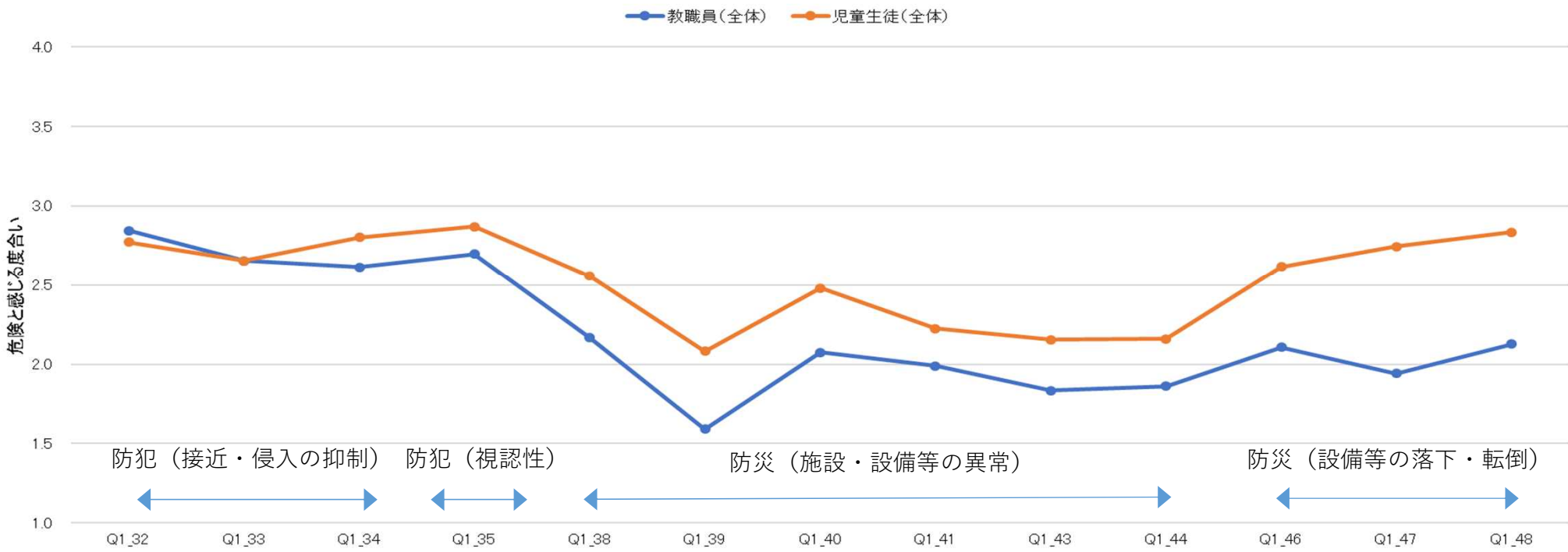


【児童生徒】



調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

防犯・防災13項目



Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ	Q1_41 教室の扉の変形、ガタつき等の異常
Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ	Q1_43 教室等におけるテレビ、額縁、照明、時計等の取付け金物の腐食、破損等の異常
Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置)	Q1_44 放送機器や体育器具の取付け金物の腐食、破損等の異常
Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険
Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常	Q1_47 教室・特別教室等の棚の転倒、転倒による鋭利な工具や危険な薬品等の落下
Q1_39 窓ガラスのひび割れ等の異常	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険
Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常	

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

防犯の中で危険認識の高い項目

		1	2	3	4
全体	教職員 (対平均)	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 112%	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 106%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 104%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 103%
	児童生徒 (対平均)	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 103%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 100%	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 99%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 95%
小学校	教職員 (対平均)	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 111%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 105%	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 104%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 102%
	児童生徒 (対平均)	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 103%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 100%	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 99%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 93%
中学校	教職員 (対平均)	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 112%	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 108%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 104%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 103%
	児童生徒 (対平均)	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 103%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 101%	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 100%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 97%
新	教職員 (対平均)	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 114%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 108%	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 105%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 102%
	児童生徒 (対平均)	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 104%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 100%	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 100%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 93%
旧	教職員 (対平均)	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 110%	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 106%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 103%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 101%
	児童生徒 (対平均)	Q1_35 敷地内や建物内の死角の存在、見通しの悪さ、人目が少ない 102%	Q1_34 外部からの来訪者を確認しづらい(入り口での来校舎チェック、受付・ガードマンの配置) 100%	Q1_32 門や玄関が多い、開いている等による外部からの不審者の侵入しやすさ 99%	Q1_33 学校周囲に壁やフェンス等がない(低い)ことによる外部からの不審者の侵入しやすさ 96%

調査結果 (① 学校利用者の認識 ー何を危険と感じているかー)

防災の中で危険認識の高い項目

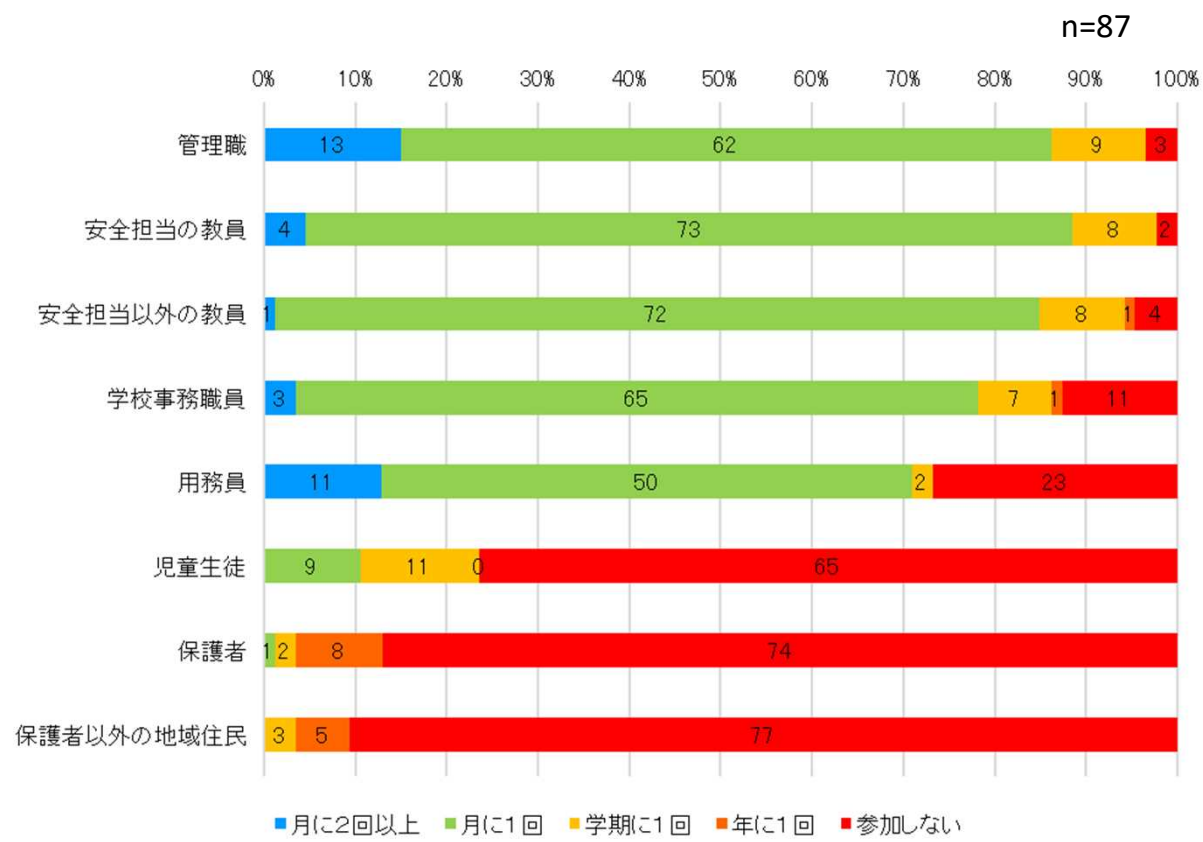
		1	2	3	4	5
全体	教職員 (対平均)	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 113%	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 111%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 110%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 108%	Q1_41 教室の扉の変形、ガタつき等の異常 104%
	児童生徒 (対平均)	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 116%	Q1_47 教室・特別教室等の棚の転倒、転倒による鋭利な工具や危険な薬品等の落下 112%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 107%	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 104%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 101%
小学校	教職員 (対平均)	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 114%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 109%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 108%	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 107%	Q1_42 外壁や内壁のひび割れ等の異常 105%
	児童生徒 (対平均)	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 115%	Q1_47 教室・特別教室等の棚の転倒、転倒による鋭利な工具や危険な薬品等の落下 110%	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 107%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 106%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 104%
中学校	教職員 (対平均)	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 115%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 112%	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 112%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 107%	Q1_47 教室・特別教室等の棚の転倒、転倒による鋭利な工具や危険な薬品等の落下 106%
	児童生徒 (対平均)	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 115%	Q1_47 教室・特別教室等の棚の転倒、転倒による鋭利な工具や危険な薬品等の落下 113%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 106%	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 100%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 96%
新	教職員 (対平均)	Q1_47 教室・特別教室等の棚の転倒、転倒による鋭利な工具や危険な薬品等の落下 115%	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 114%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 106%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 105%	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 104%
	児童生徒 (対平均)	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 119%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 114%	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 107%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 101%	Q1_47 教室・特別教室等の棚の転倒、転倒による鋭利な工具や危険な薬品等の落下 100%
旧	教職員 (対平均)	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 117%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 110%	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 108%	Q1_42 外壁や内壁のひび割れ等の異常 106%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 106%
	児童生徒 (対平均)	Q1_48 棚の上の重量物の落下の危険 113%	Q1_47 教室・特別教室等の棚の転倒、転倒による鋭利な工具や危険な薬品等の落下 110%	Q1_38 天井のずれ、ひび割れ、しみ等の異常 107%	Q1_46 テレビ台や電子黒板、キャスター付きの台、ピアノなどの移動、転倒の危険 106%	Q1_40 窓やドアの開閉時の引っかかり、著しく重いなどの異常 102%

定期の安全点検の実施状況

約 8 ~ 9 割の学校が、月に 1 回以上、定期の安全点検を実施

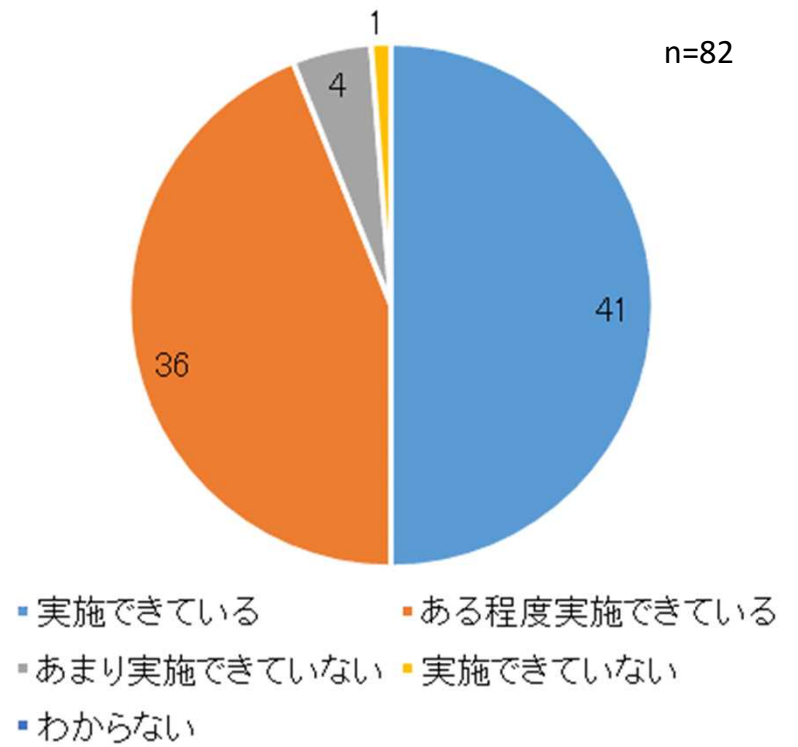
【管理職】

「定期の安全点検」に参加する頻度



【安全担当教員】

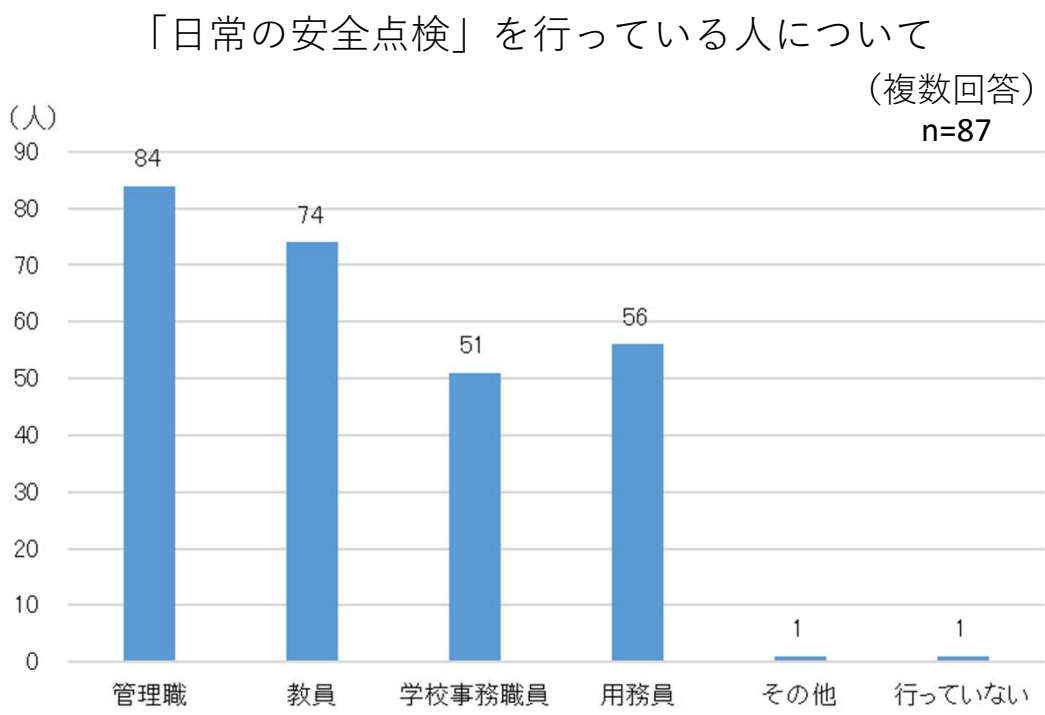
「定期の安全点検」について、児童生徒が危険な行動をとる場合もあることを考慮しながら、各場所の安全点検を実施しているか (人)



日常の安全点検の実施状況

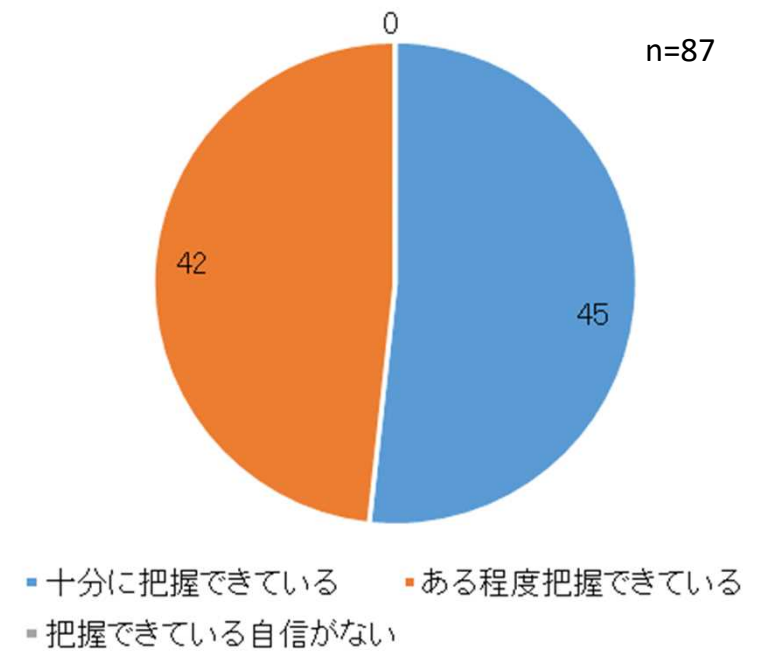
主に、管理職や教員が日常の安全点検を実施し、全ての管理職が、学校内の不具合を十分に、又は、ある程度把握できていると認識

【管理職】



【管理職】

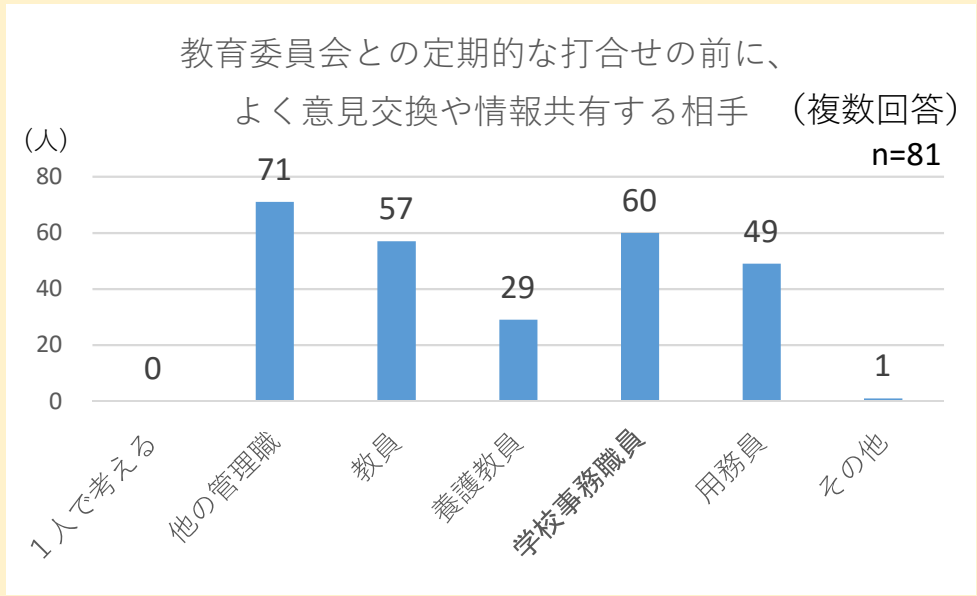
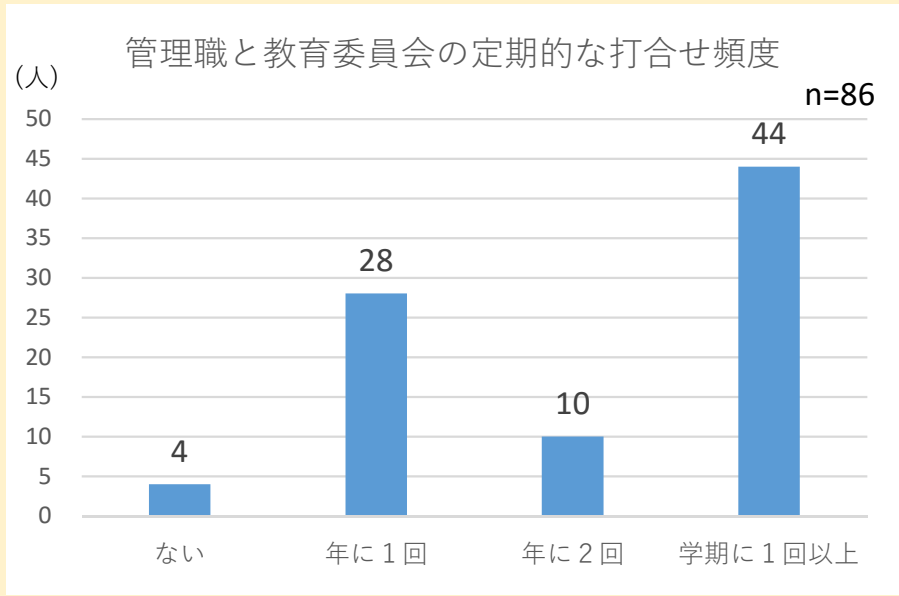
どの程度、学校内の不具合を把握しているか (人)



学校と教育委員会との打合せ頻度等

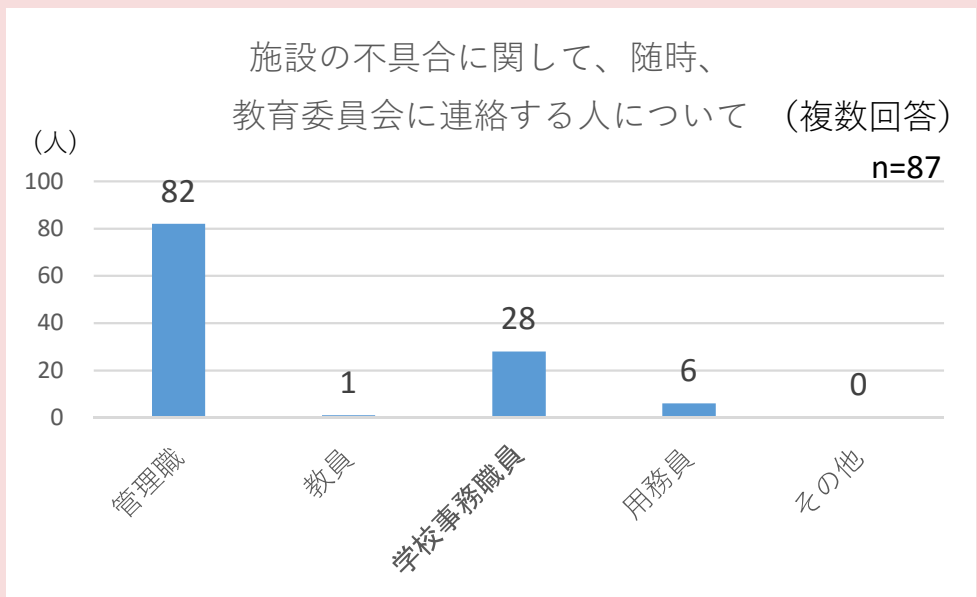
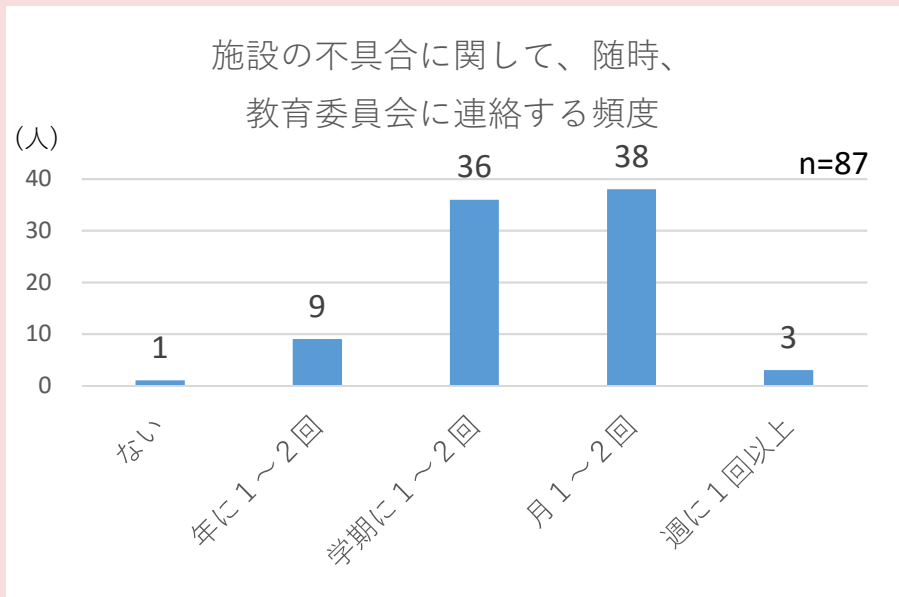
【管理職】

定期的な打合せ



【管理職】

随時の打合せ



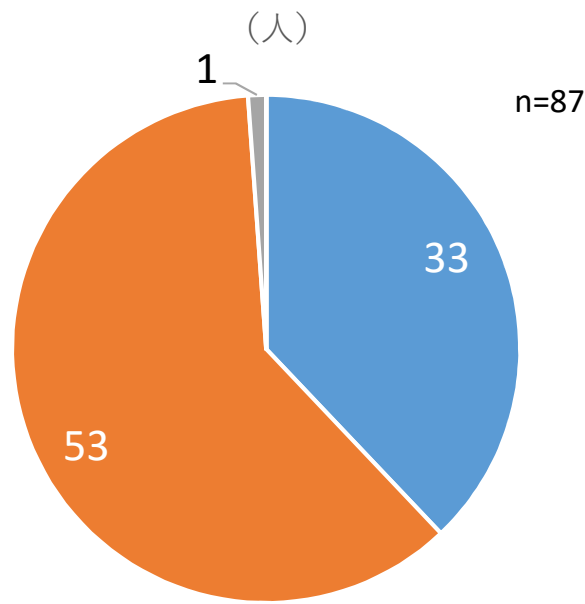
問題意識の共有に対する認識

<学校と教育委員会> ほぼ全ての管理職が、教育委員会と問題意識を共有できている、又は、ある程度共有できていると認識

<学校内> 9割以上の教職員が、管理職と問題意識を共有できている、又は、ある程度共有できていると認識

【管理職】

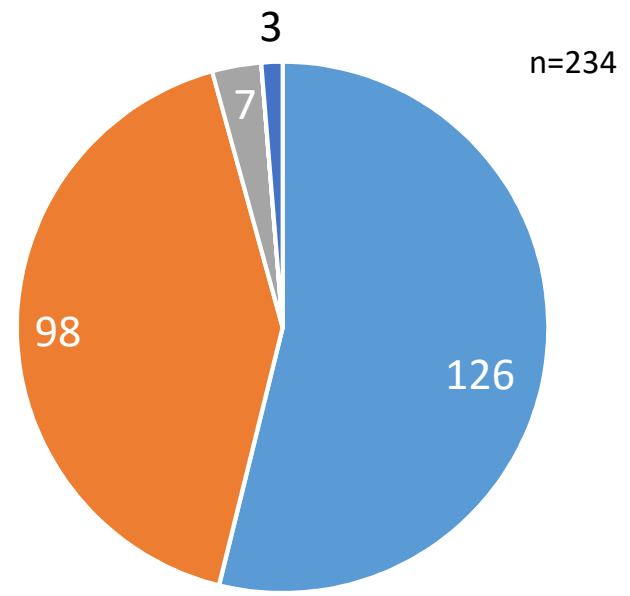
施設の不具合に関して、
教育委員会と問題意識を共有できているか



- 共有できている
- ある程度共有できている
- あまり共有できていない
- 共有できていない
- わからない

【安全担当教員、学校事務職員、用務員】

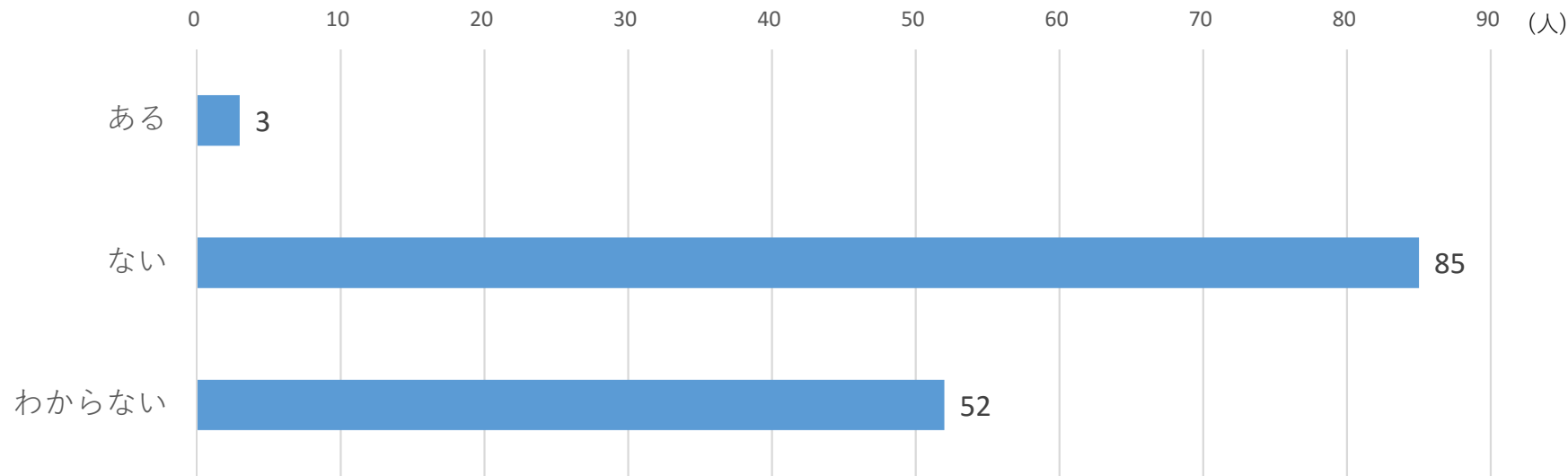
施設の不具合に関して、
管理職と問題意識を共有できているか (人)



- 共有できている
- ある程度共有できている
- あまり共有できていない
- 共有できていない
- わからない

設計時の意図とは違う使われ方をされたことにより、
事故や事件が発生したこと (しそうなこと) はあるか

n=140

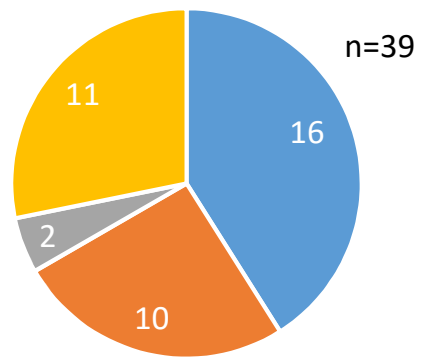


< 「ある」の具体的な内容 >

- 窓のてすりがあるものの、こどもの遊びにより飛び出して落下しそうになった。
- クラブ活動において、校舎周辺のフェンスへボールを打ち付け練習を行うことがあった。フェンスをそのような用途に使用することは想定されておらず、フェンスにゆがみ・へこみが生じ、修繕することとなった。
- 渡り廊下 (1階) を車両が横切った際に、グレーチングが跳ね上がり、車両が破損した。
(車両が通過することは想定していない)

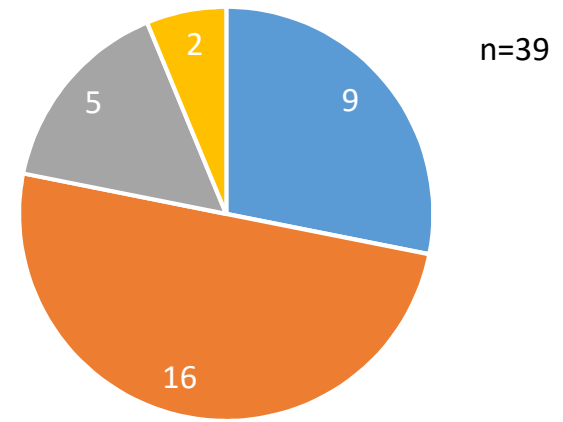
学校と設計者とのコミュニケーション (改築・大規模改修時)

学校施設の計画段階において、学校側の意見・要望を、設計者に伝える機会があったか (人)



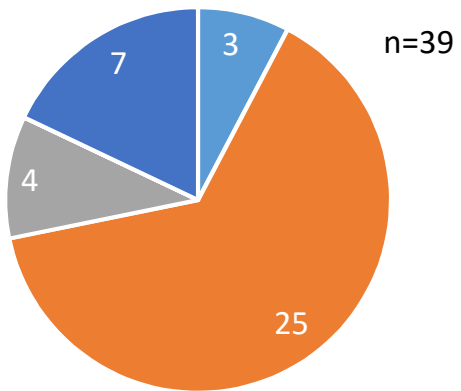
- 設計者に直接伝える機会があった
- 教育委員会等の行政機関を通じて、間接的に伝えた
- 機会はなかった
- わからない

学校施設が完成した際の設計者からの説明について (人)



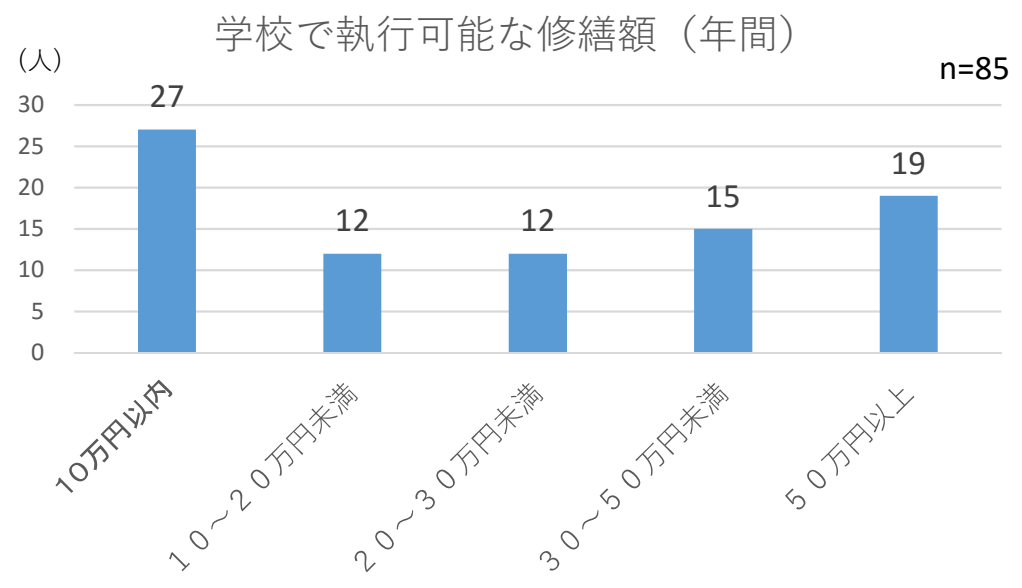
- 設計者から説明を受けるとともに、引継ぎにも使用できる分かりやすいマニュアル等の提供を受けた
- 設計者から説明を受ける機会があった
- 教育委員会等の行政機関を通じて、間接的に説明を受ける機会があった
- 機会はなかった

学校側の意見・要望に配慮した学校施設となっているか (人)



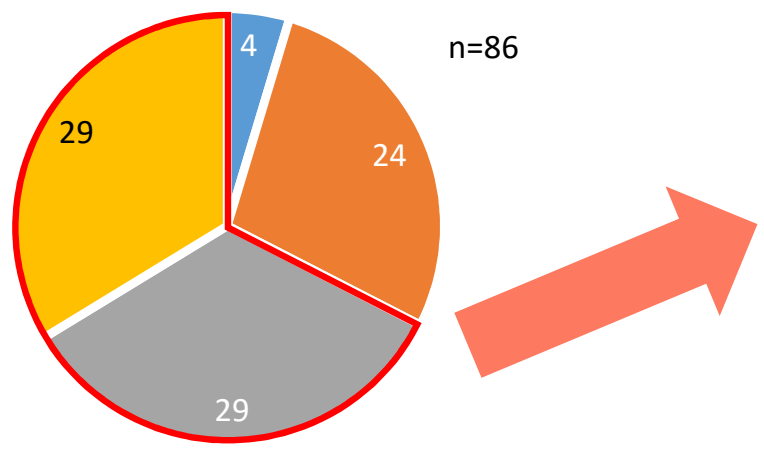
- 十分に配慮された設計となっている
- ある程度配慮された設計となっている
- あまり配慮された設計となっていない
- 配慮された設計となっていない
- わからない

学校で執行可能な年間の修繕額

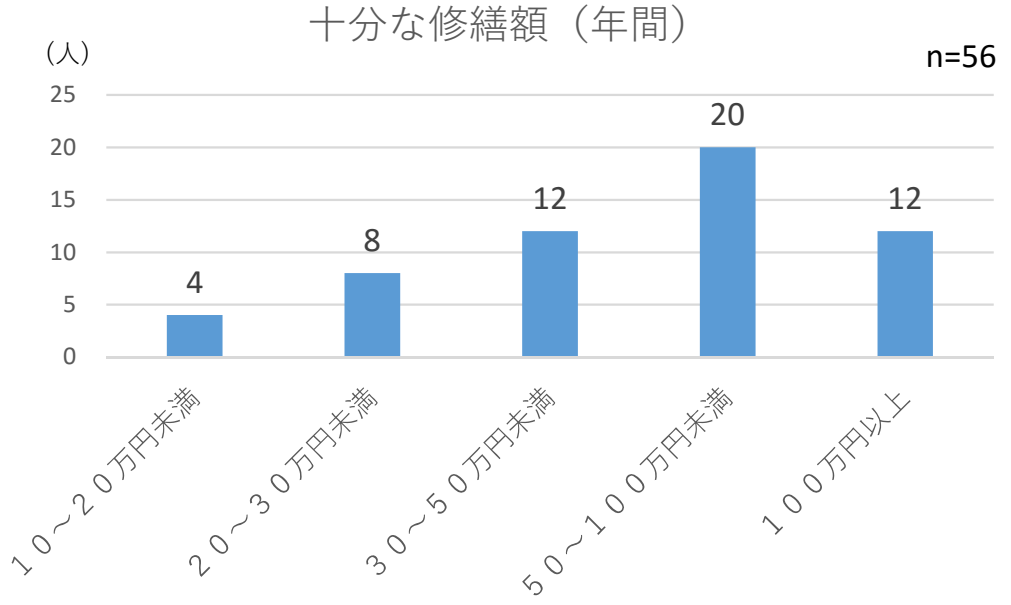


約6割の管理職が、十分ではない、又は、あまり十分ではないと認識

修繕額 (年間) が十分かについて (人)



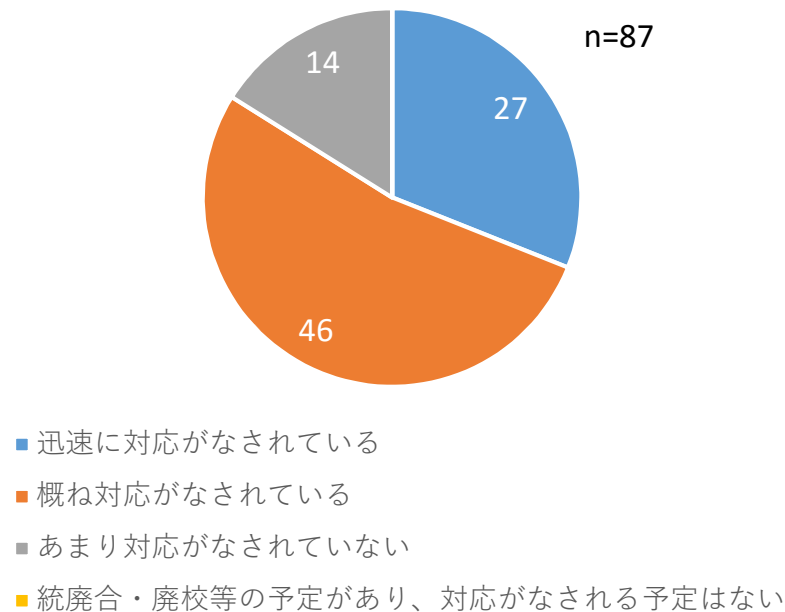
- 十分である
- ある程度十分である
- あまり十分ではない
- 十分ではない



教育委員会による不具合への対応状況

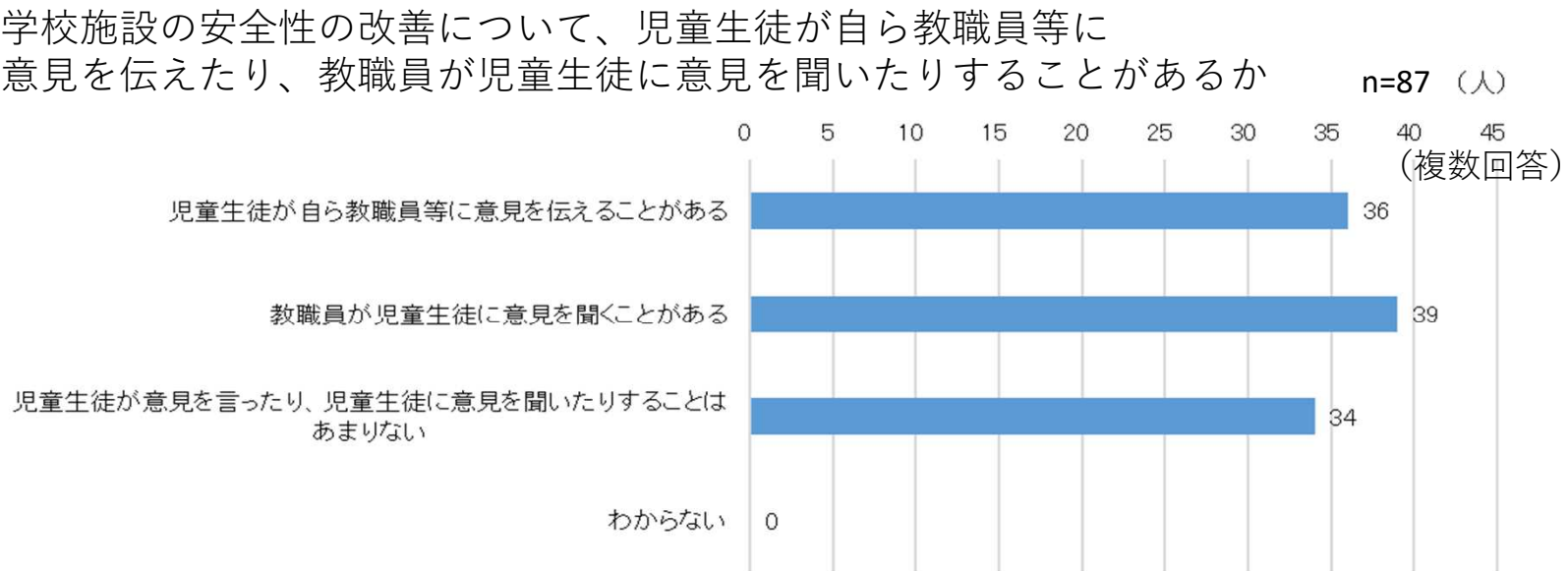
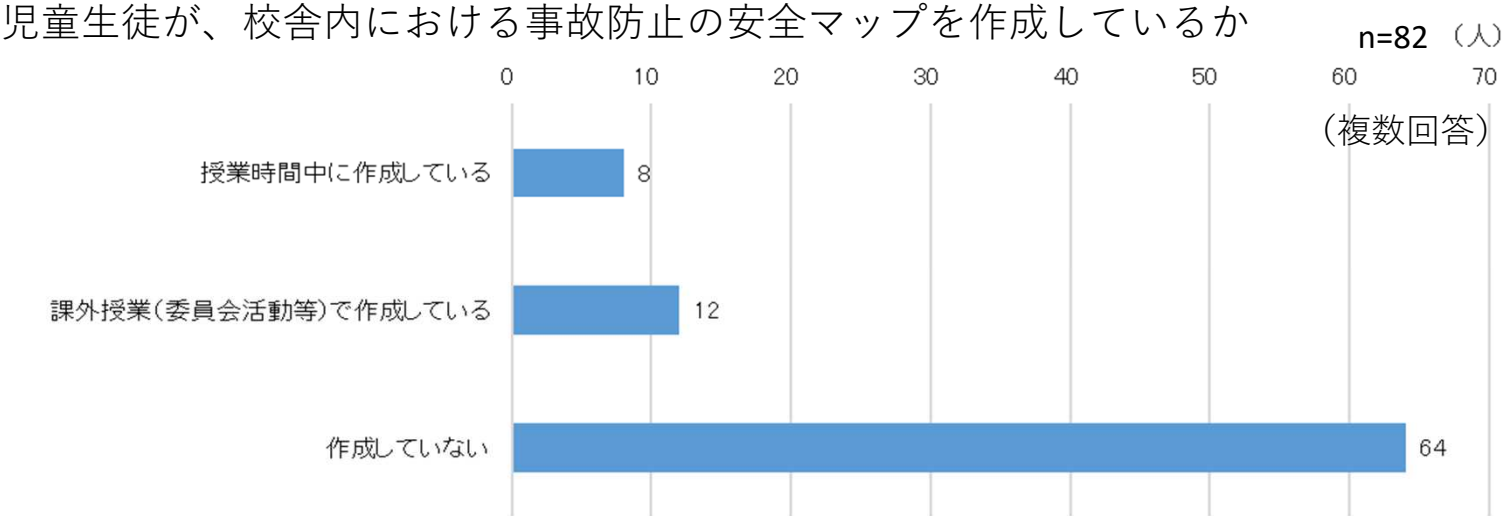
約8割の管理職が、学校施設の不具合について、迅速に対応がなされている、又は、概ね対応がなされていると認識

教育委員会に要望した学校施設の不具合の対応状況 (人)



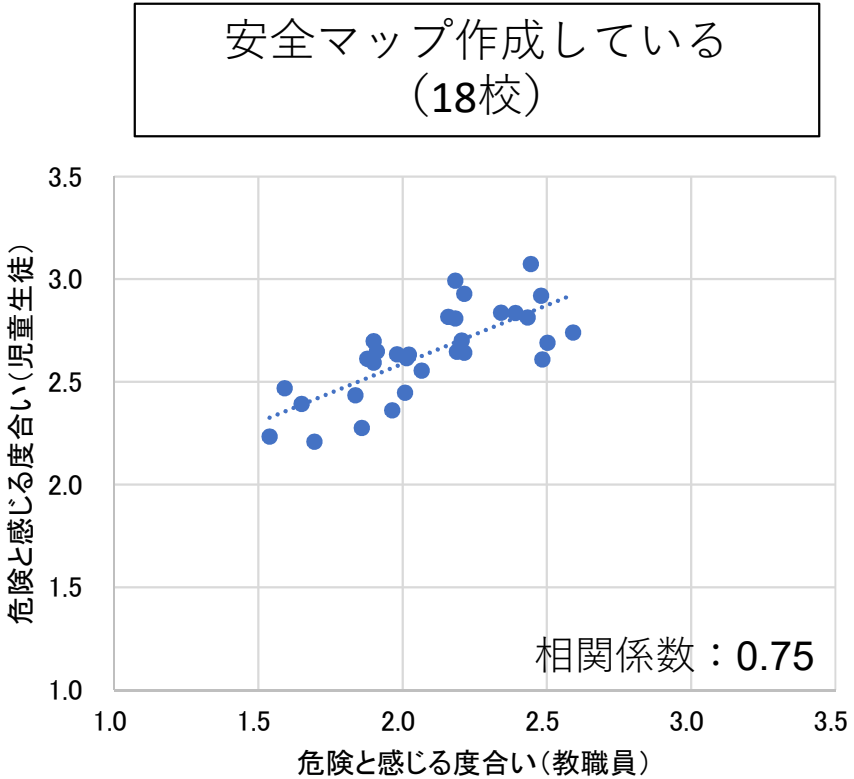
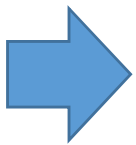
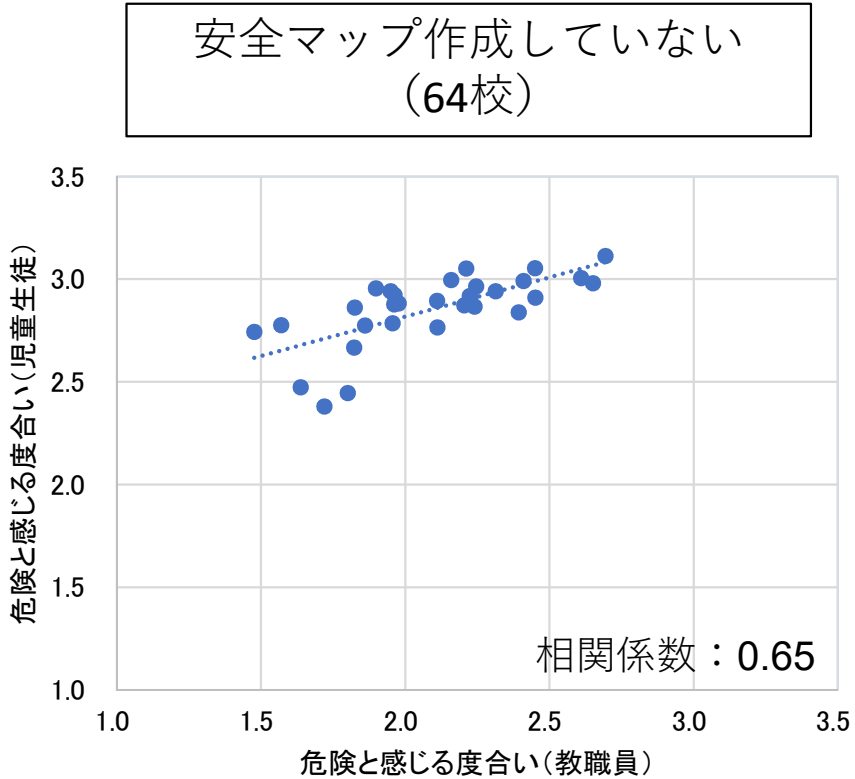
児童生徒の主体的な参画

児童生徒が、校内安全マップを作成している学校は、約2割
児童生徒が、自ら教職員に意見を伝えることがある学校は、約4割



児童生徒の主体的な参画

児童生徒が、校内安全マップを作成することで、教職員と児童生徒の危険と感ずる項目や、危険と感ずる度合いについて、共通認識が得られる効果がある

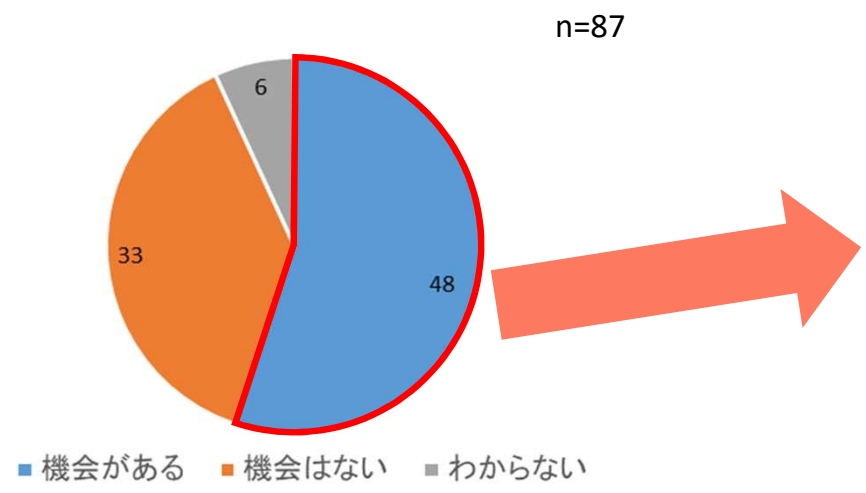


教職員が危険と感ずる度合いと児童生徒が危険と感ずる度合いの相関関係 (日常事故31項目)

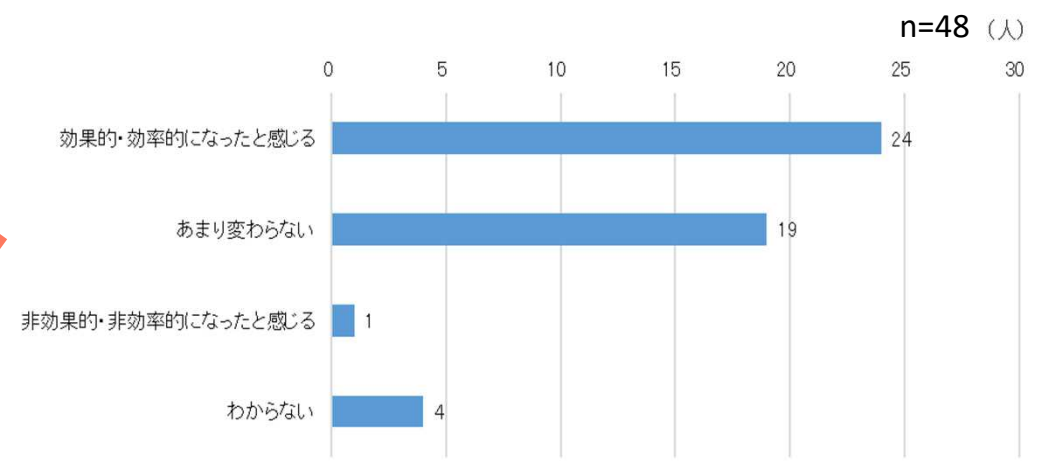
教職員が危険と感ずる度合いと児童生徒が危険と感ずる度合いの相関関係 (日常事故31項目)

保護者や地域住民の主体的な参画

保護者や地域住民が、学校施設の安全性について、学校職員と一緒に考えたり、意見交換したりする機会はあるか (直近1年)



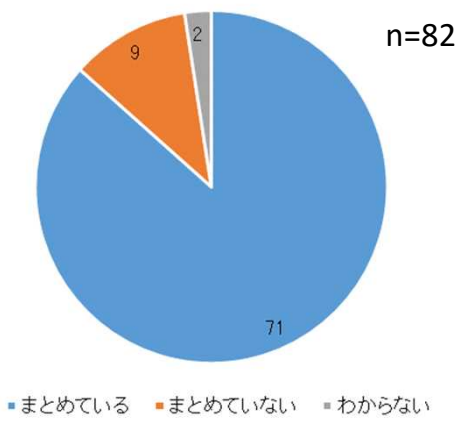
保護者・地域住民の参画により、総合的に勘案して、学校職員の安全に関わる業務が効果的・効率的に行えるようになったと感じるか



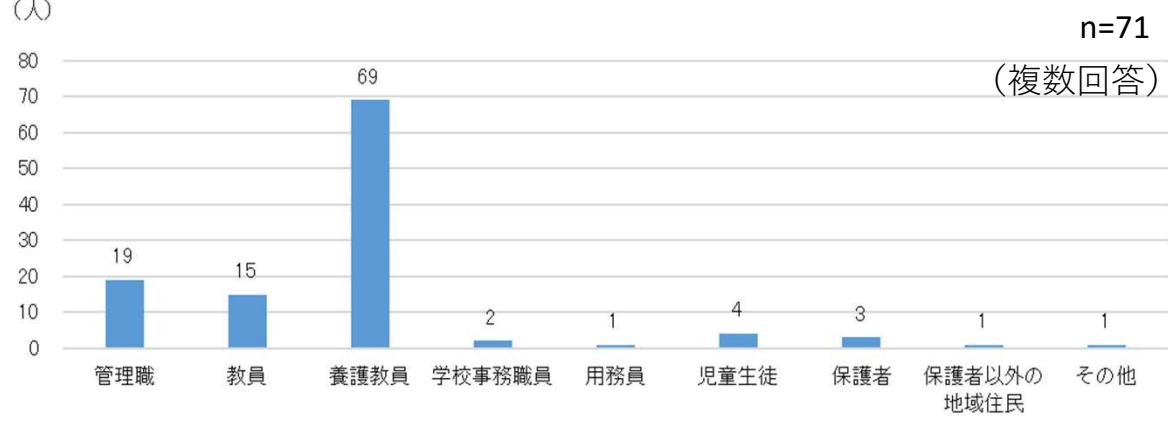
データの見える化と共有

約9割の学校が、児童生徒の怪我の状況について、データとしてまとめている
まとめたデータの活用については、学校によって、取組状況の差が見られる

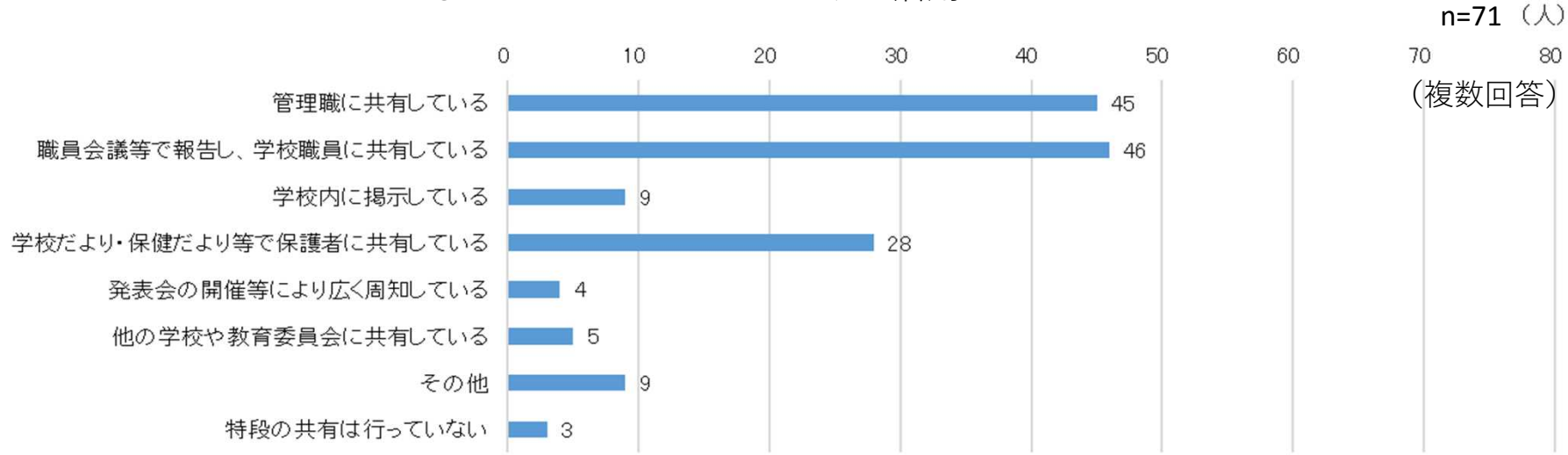
学校内で起きた児童生徒の怪我の状況をデータとしてまとめているか (人)



誰が、データのまとめに参画しているか

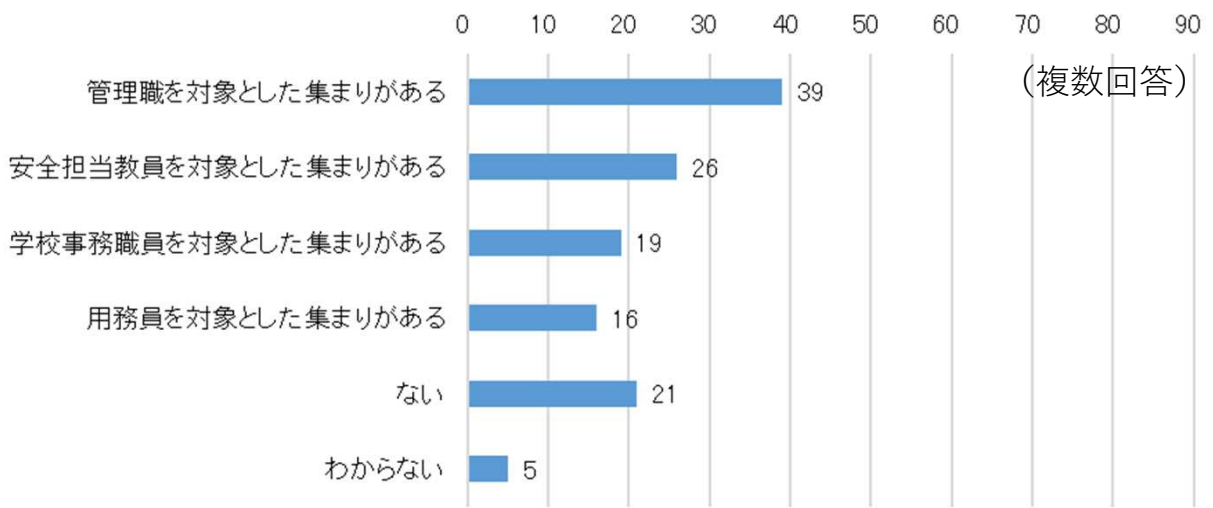


まとめたデータをどのように活用しているか

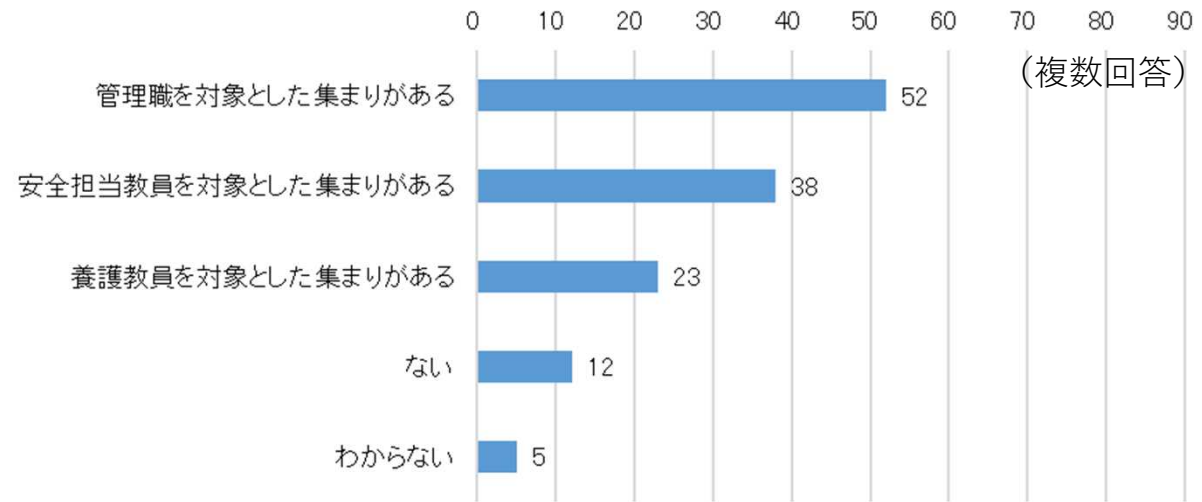


他校からの情報収集

直近1年以内に、**学校施設の安全・安心**に関して、他校の職員と情報交換する機会があるか n=87 (人)



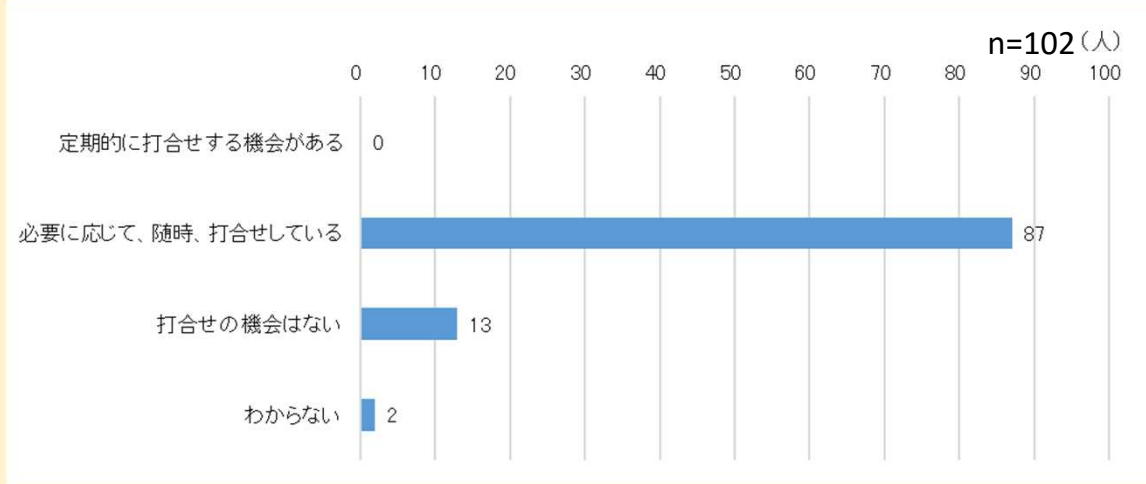
直近1年以内に、**安全教育**に関して、他校の職員と情報交換する機会があるか n=87 (人)



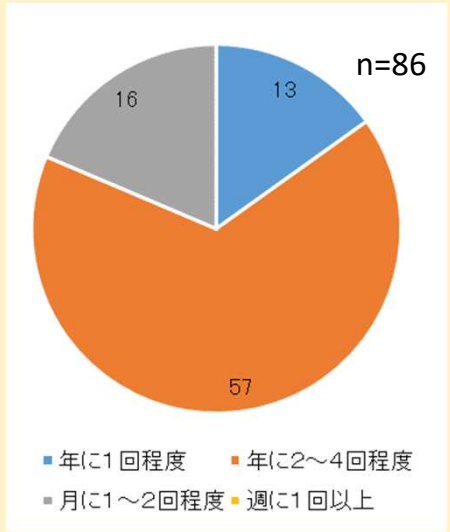
教育委員会内の情報交換

施設担当部署

学校から報告を受けた**学校施設の不具合**について、
安全教育担当に共有し、連携して対策を検討する機会があるか

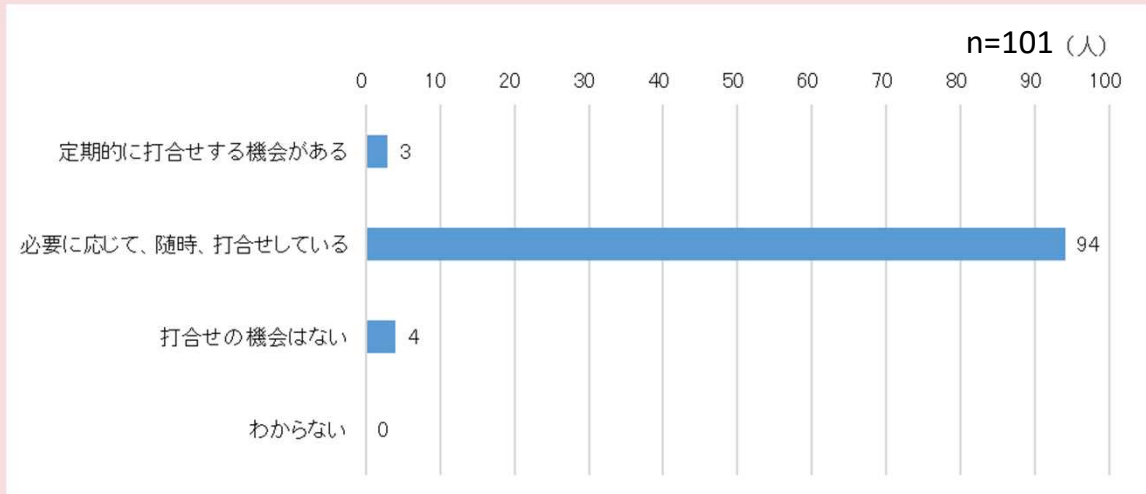


打合せの頻度

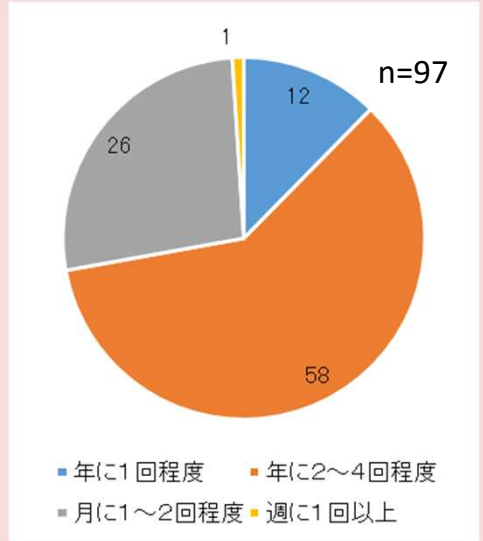


安全教育担当部署

学校で行われている**安全教育の取組**や、**学校で起きている事故や事件**について、
施設担当に共有し、連携して対策を検討する機会があるか



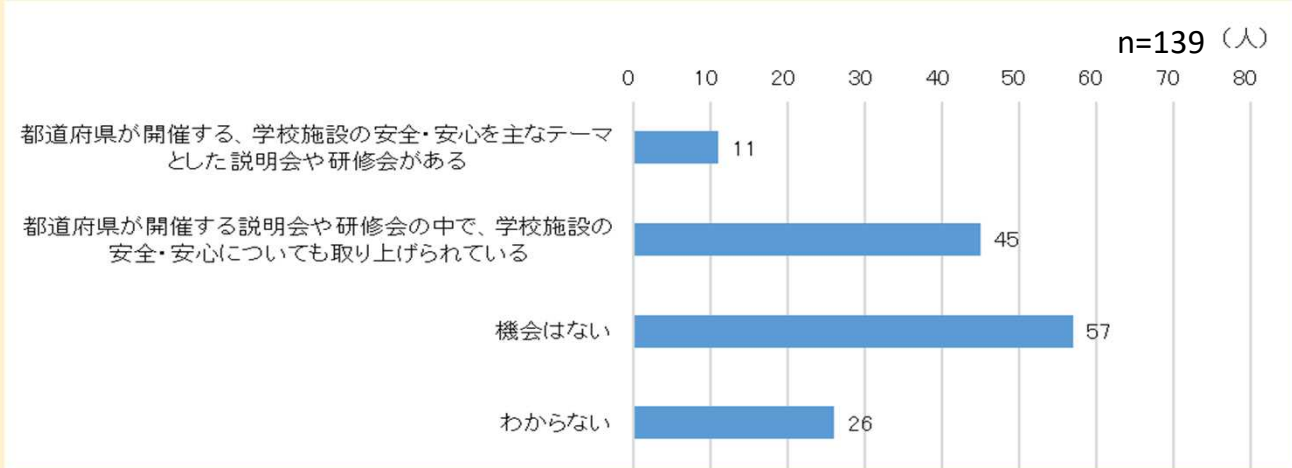
打合せの頻度



他自治体からの情報収集

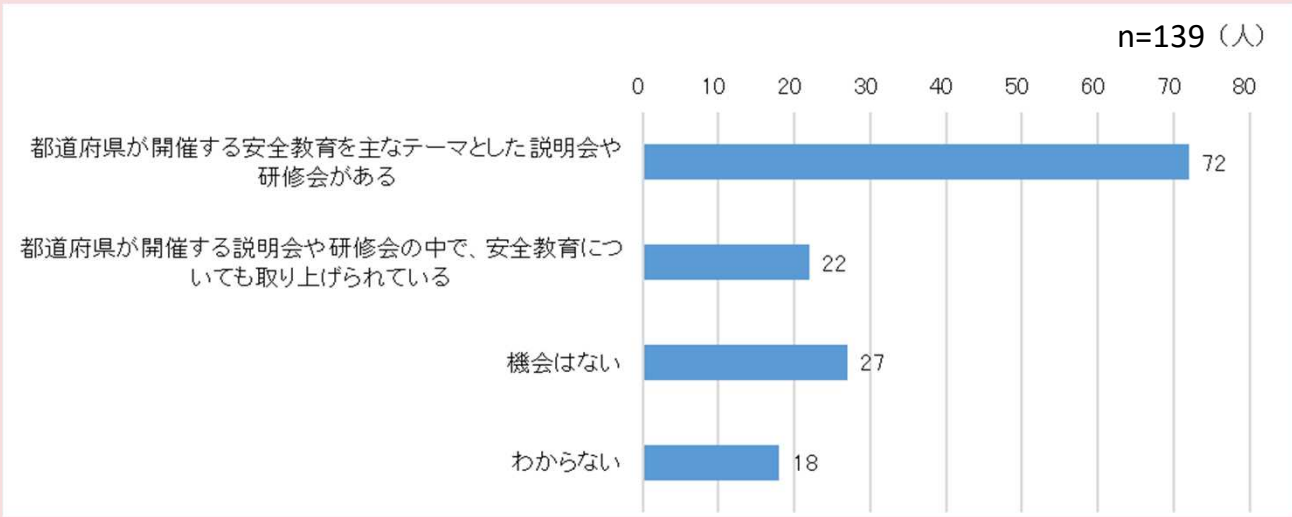
施設担当部署

直近1年以内に、**施設の安全・安心**に関して、都道府県が説明会や研修会を開催し、他自治体の職員と情報交換する機会があるか



直近1年以内に、**安全教育**に関して、都道府県が説明会や研修会を開催し、他自治体の職員と情報交換する機会があるか

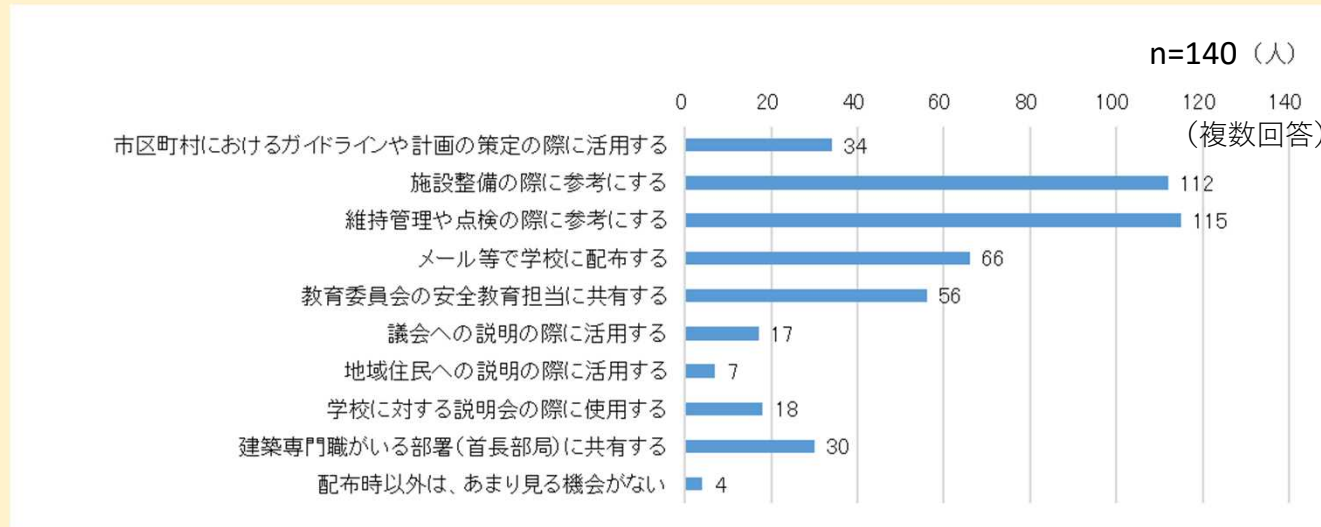
安全教育担当部署



国からの情報の活用

施設担当部署

国から情報提供があった報告書等の活用方法 (施設の安全・安心)



国から情報提供があった報告書等の活用方法 (安全教育)

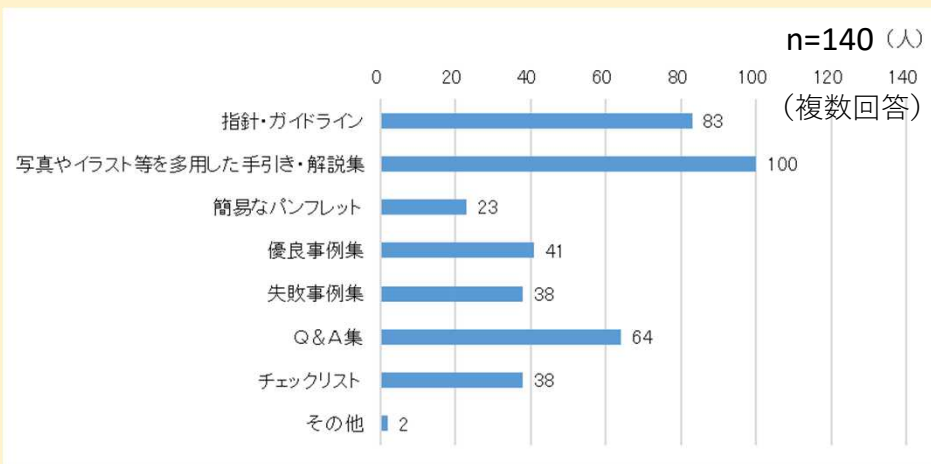
安全教育担当部署



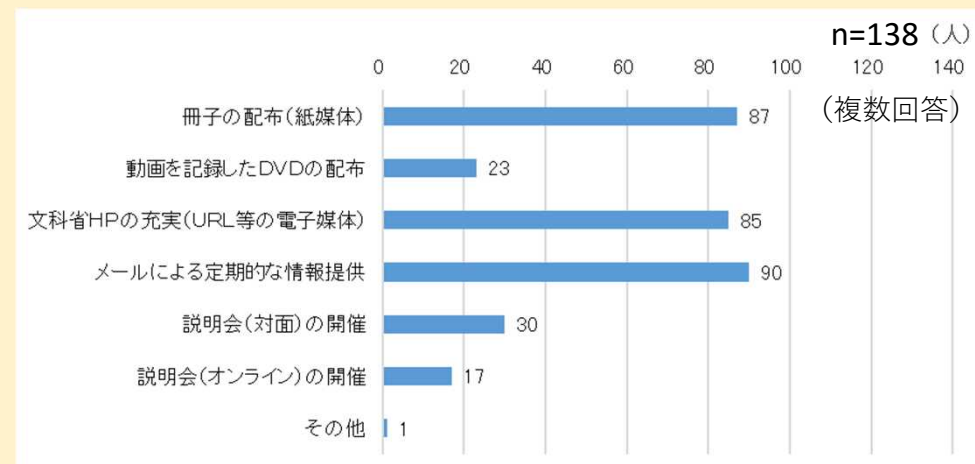
国に期待する情報提供

国に期待する情報提供内容 (施設の安全・安心)

施設担当部署

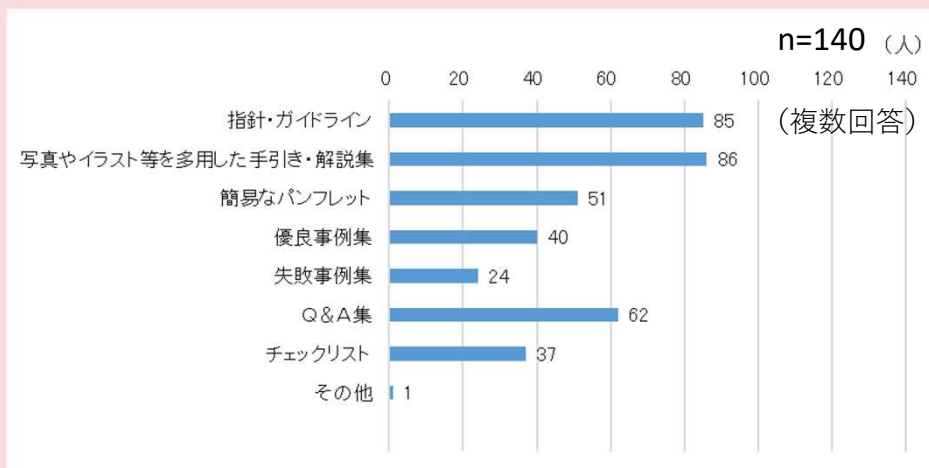


国に期待する情報提供の方法 (施設の安全・安心)

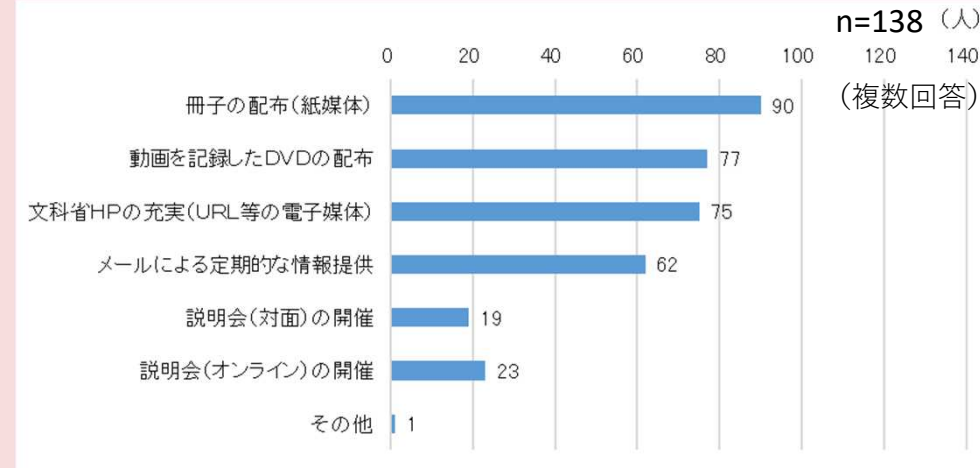


国に期待する情報提供内容 (安全教育)

安全教育担当部署



国に期待する情報提供の方法 (安全教育)



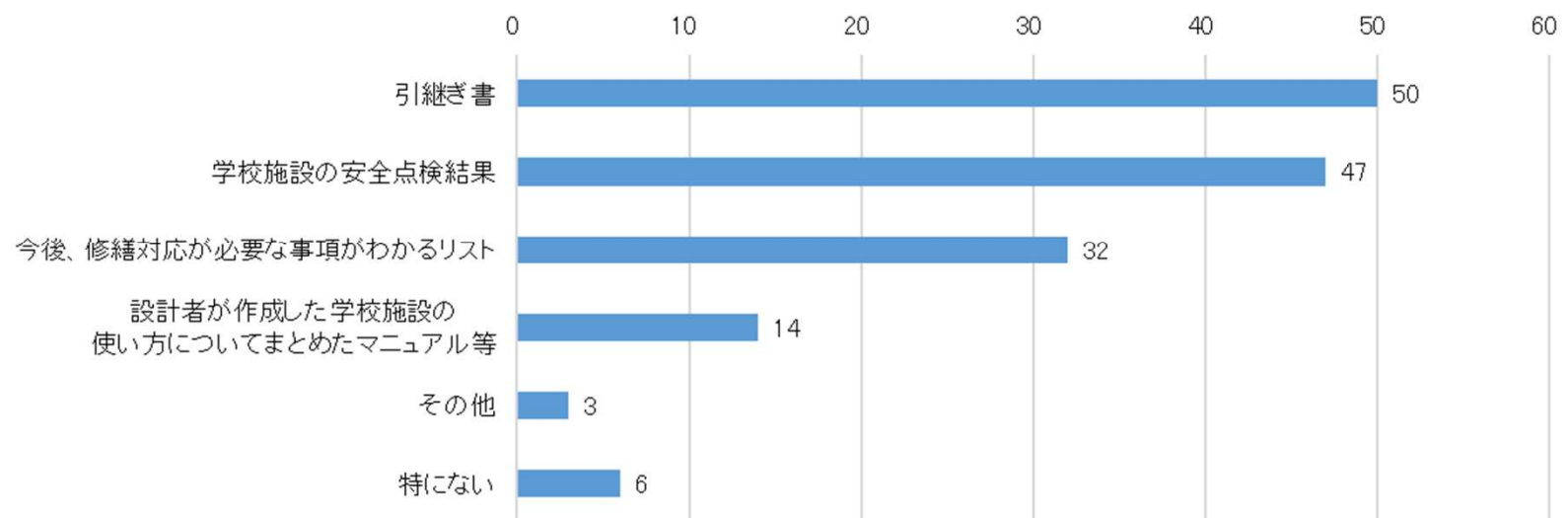
取組の継続

学校施設の維持管理に関して、前任者から引き継いだもの

(複数回答)

n=87

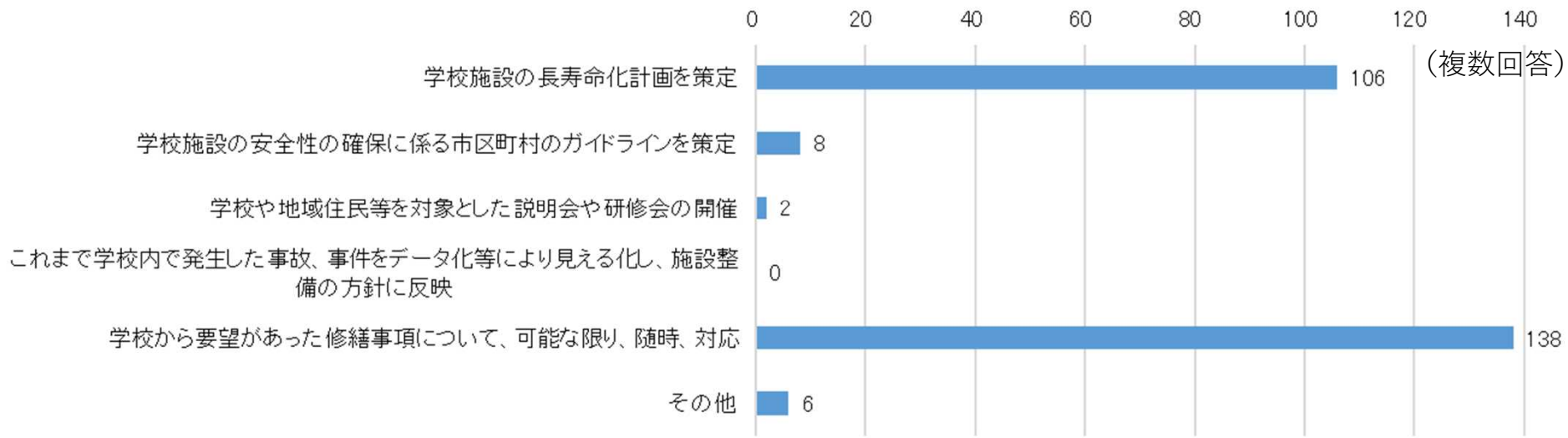
(人)



教育委員会による取組

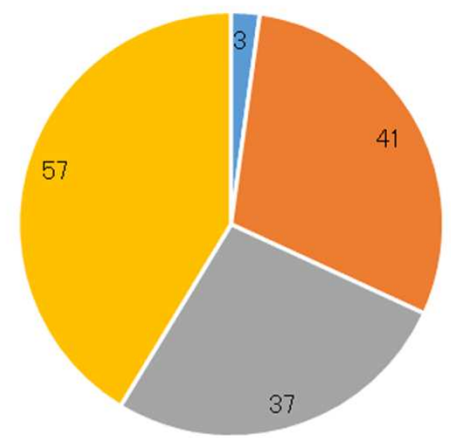
実施している取組 (事故防止、防犯、防災)

n=140 (人)



修繕対応の予算について

n=138



- 十分、確保されている
- ある程度、確保されている
- やや不足している
- 不足している

調査結果 (③事故発生件数と学校利用者の認識との関係)

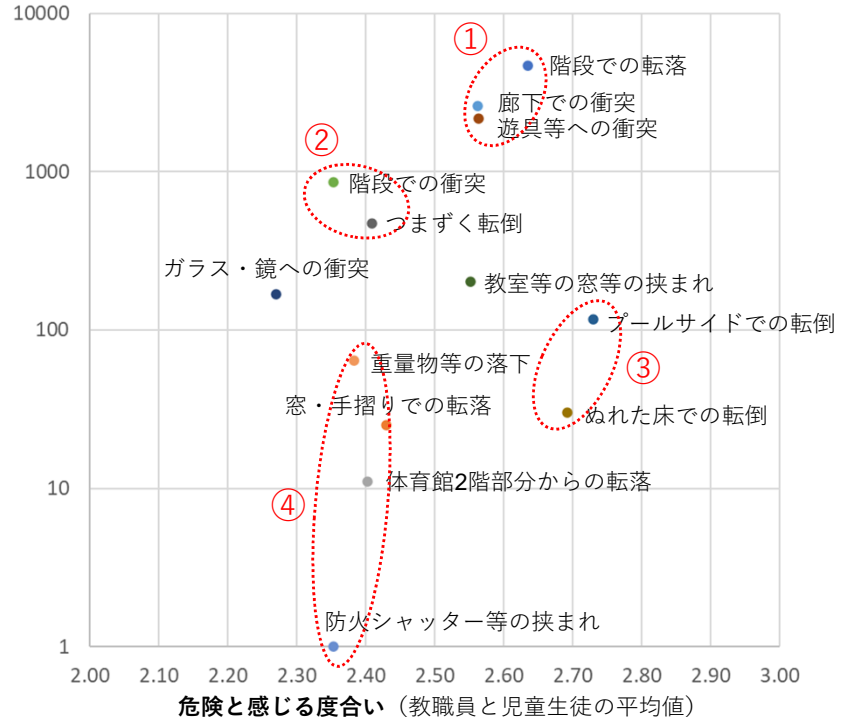
日本スポーツ振興センターがまとめている災害共済給付の給付状況等に関するデータ（平成30年度）を活用して、実際に発生した事故件数と、各種事故に対して学校利用者が危険と感じる度合いとの関係について分析を行った

■ 調査対象自治体及び学校の事故発生件数（平成30年度）

	階段での転落	窓手摺り転落	体育館2階部分転落	天窓転落	廊下での衝突	階段での衝突	ガラス・鏡衝突	遊具等衝突	つまづく転倒	ぬれている転倒	プールサイド転倒	教室の窓等挟まれ	防火シャッター等挟まれ	重量物等落下	プール排水溝吸引	合計	公立小中学校数	事故件数1校あたり
140自治体	4,660	25	11	0	2,586	859	168	2,163	470	30	117	201	1	64	0	11,355	7,199	1.58
	41%	0%	0%	0%	23%	8%	1%	19%	4%	0%	1%	2%	0%	1%	0%			
87校	45	0	0	0	31	9	2	18	5	1	1	1	0	0	0	113	-	1.30
	40%	0%	0%	0%	27%	8%	2%	16%	4%	1%	1%	1%	0%	0%				

■ 事故発生件数（対数表示）と学校利用者が危険と感じる度合いとの関係

事故発生件数（対数）



<グループ①>
 学校利用者が**危険と感じる度合い**が比較的高く、実際の**事故発生件数**が比較的多い事故としては、「**階段での転落**」「**廊下での衝突**」「**遊具等への衝突**」

<グループ②>
 学校利用者が**危険と感じる度合い**が比較的低いが、実際の**事故発生件数**が比較的多い事故としては、「**階段での衝突**」「**床の段差等につまづくことによる転倒**」

グループ①やグループ②の事故に対して、優先的に安全対策を行うことが、事故発生を抑える上で有効であると考えられる

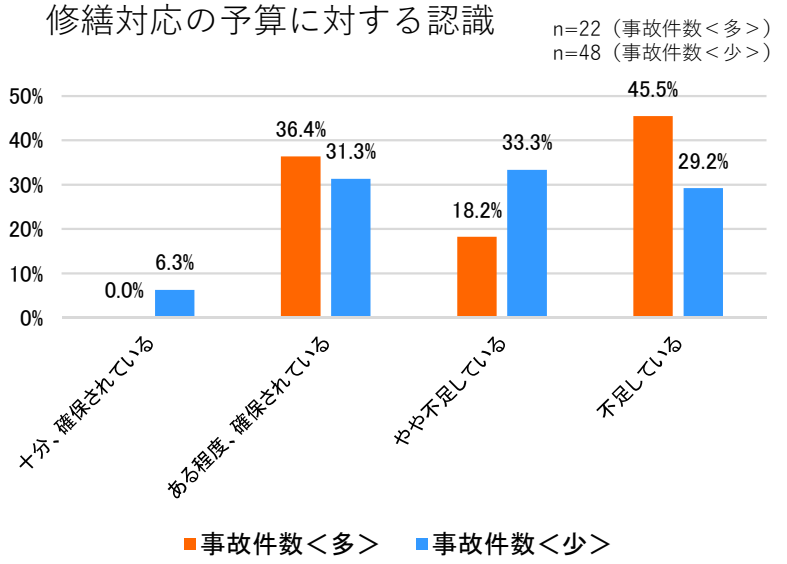
一方、「防火シャッター等の挟まれ」「天窓からの転落」等、事故発生件数が比較的小なくても、**一度、起きると重傷につながるリスクの高い事故**もある。危険と感じる度合いと事故重症度との関係について、分析することが今後の課題

調査結果 (③事故発生件数と取組状況との関係)

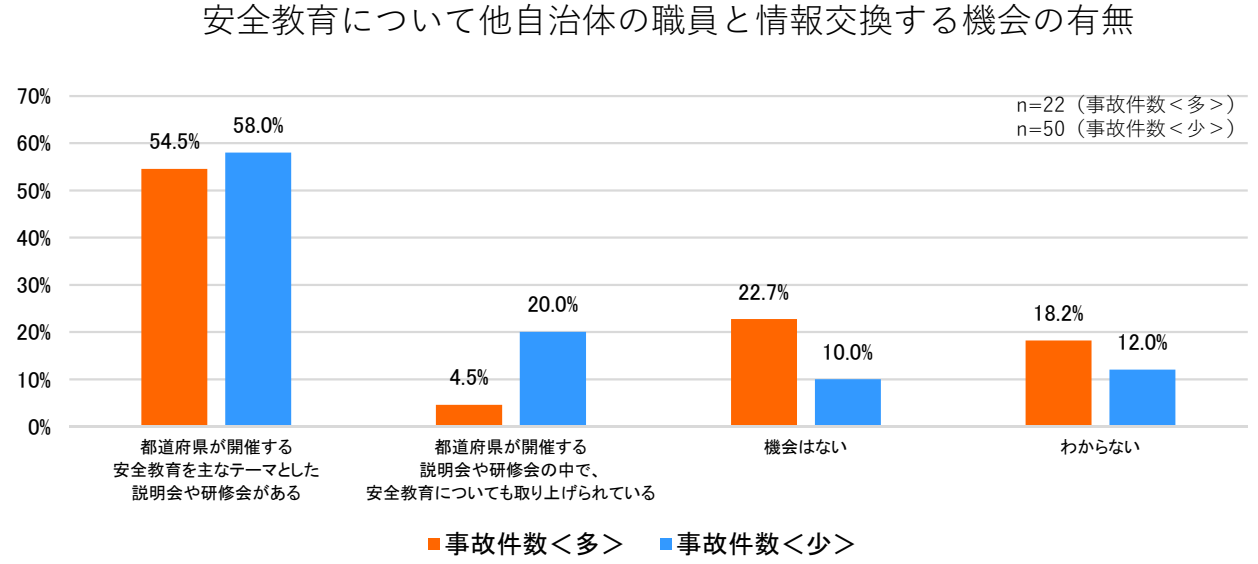
事故発生件数が比較的多い自治体・学校と、比較的小さい自治体・学校との間で、学校の安全・安心に関して、どのような取組の差が見られるかについて分析を行った

- 事故発生件数が比較的多い自治体 : 平成30年度に医療費の請求があった事故発生件数が、**1校あたり2件以上**であった**22自治体** (15.7%)
- 事故発生件数が比較的小さい自治体 : 平成30年度に医療費の請求があった事故発生件数が、**1校あたり1件未満**であった**50自治体** (35.7%)
- 事故発生件数が比較的多い学校 : 平成30年度に医療費の請求があった事故発生件数が、**2件以上**であった**25学校** (28.7%)
- 事故発生件数が比較的小さい学校 : 平成30年度に医療費の請求があった事故発生件数が、**1件未満**であった**44学校** (50.6%)

事故が多い自治体と事故が少ない自治体との間で差が見られた認識や取組



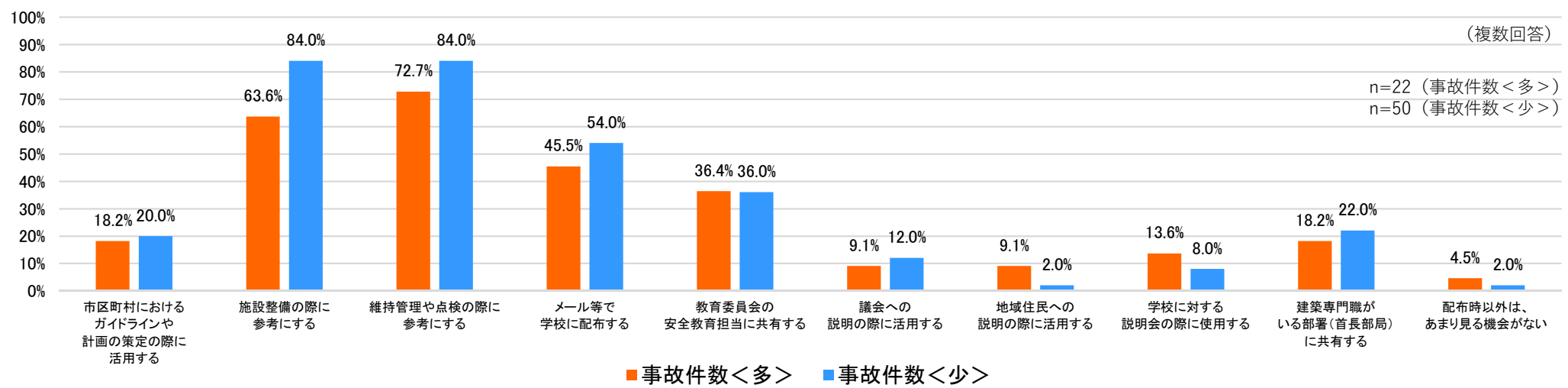
事故が多い自治体の方が、不足していると
感じる割合が高い傾向



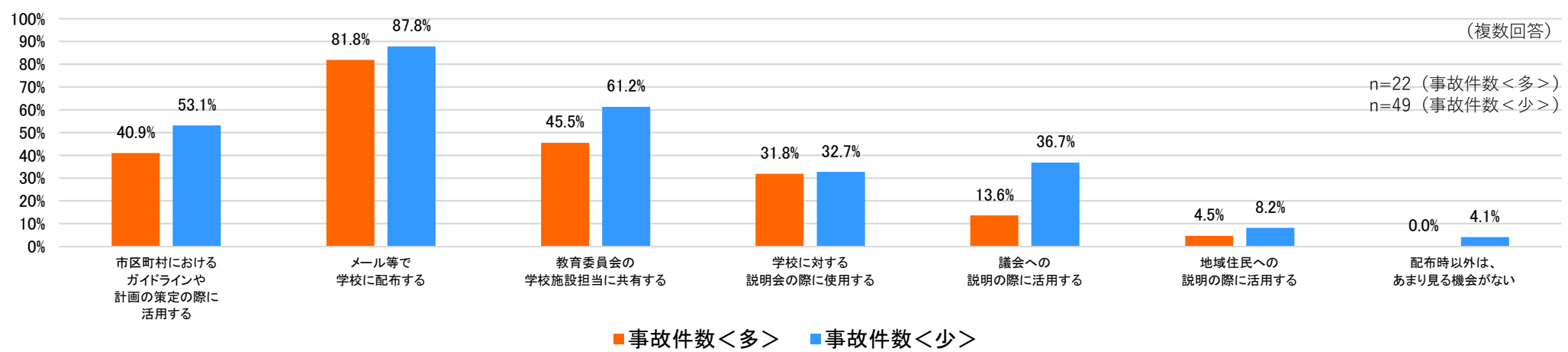
事故が少ない自治体の方が、都道府県が開催する説明会や研修会を通じて
他自治体の職員と情報交換する機会がある傾向

事故が多い自治体と事故が少ない自治体との間で差が見られた認識や取組

国から情報提供があった報告書の活用状況 (学校施設の安全・安心)



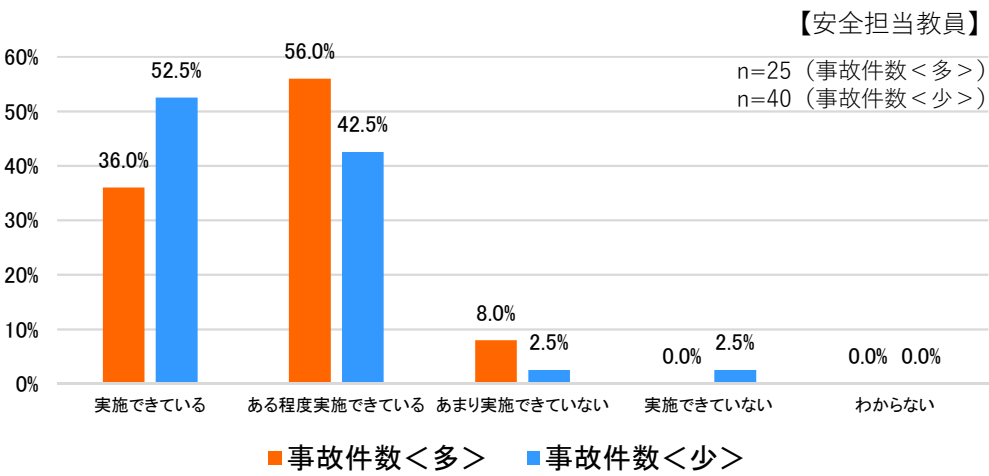
国から情報提供があった報告書の活用状況 (安全教育)



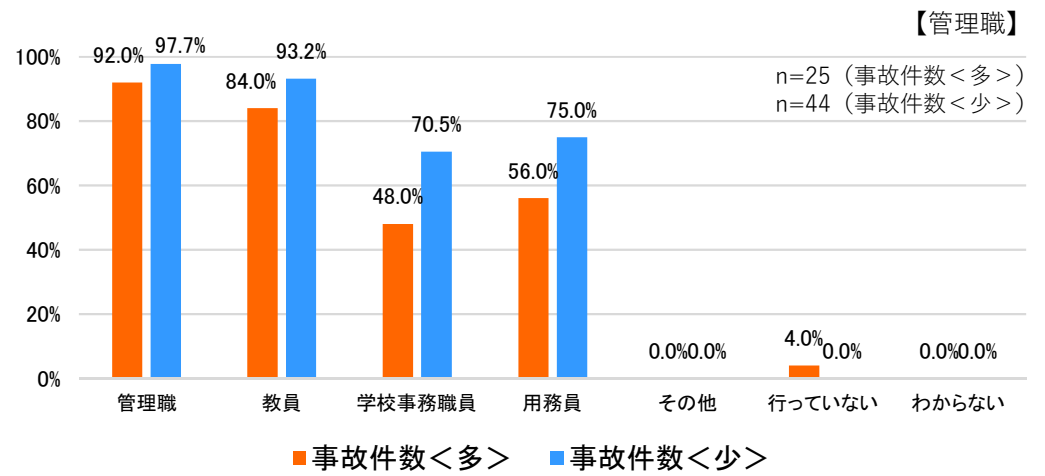
事故が少ない自治体の方が、国が作成した報告書を、業務の中で参考にしたり、他部署や学校等への共有したりする機会が多い傾向

事故が多い学校と事故が少ない学校との間で差が見られた認識や取組

児童生徒が危険な行動をとる場合もあることを考慮しながら定期的安全点検を実施しているか



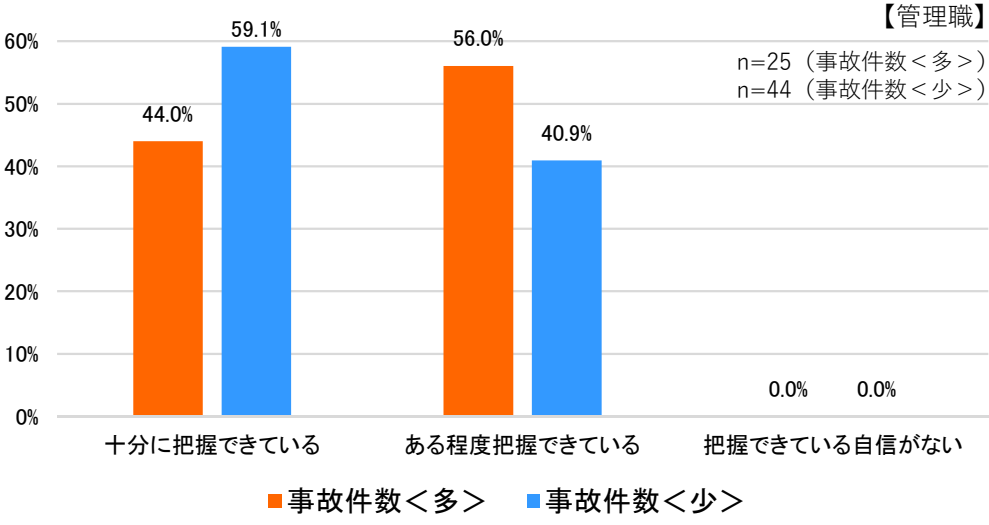
日常の安全点検を実施しているか (役職別)



事故が少ない学校の方が、実施できていると回答する割合が高い傾向

事故が少ない学校の方が、日常の安全点検を実施している割合が高く、特に学校事務職員と用務員について大きな差がみられた

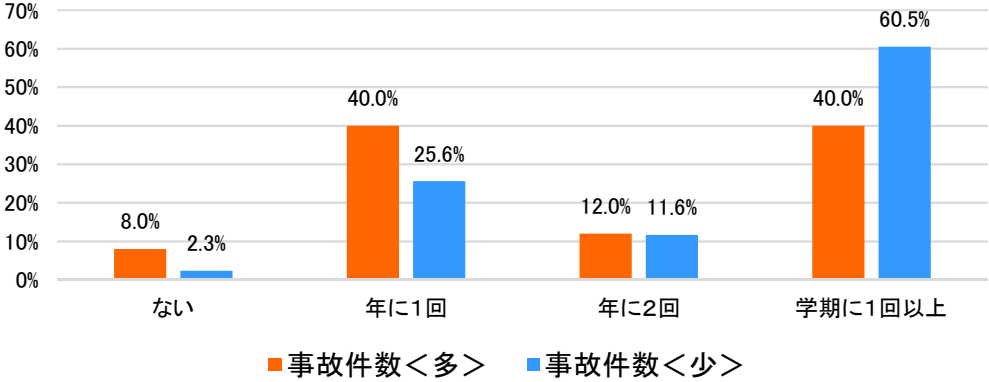
どの程度、学校内の不具合を把握しているか



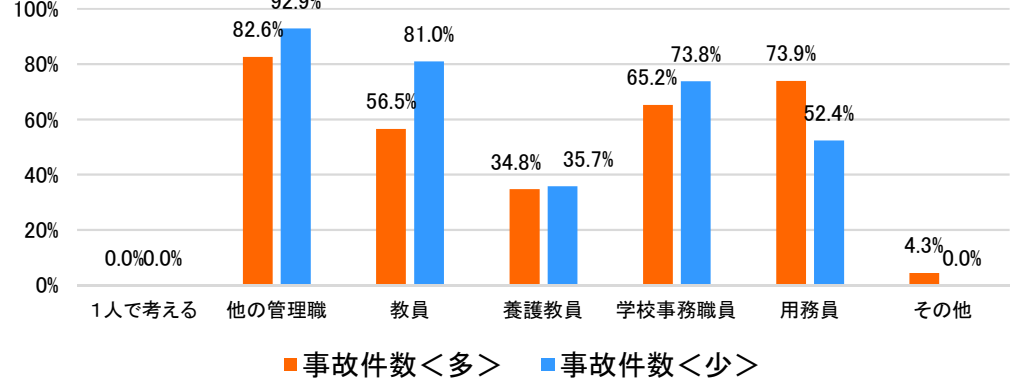
事故が少ない学校の方が、十分に把握できていると回答する割合が高い傾向

事故が多い学校と事故が少ない学校との間で差が見られた認識や取組

学校施設の不具合に関する学校管理職と教育委員会との定期的な打合せの頻度



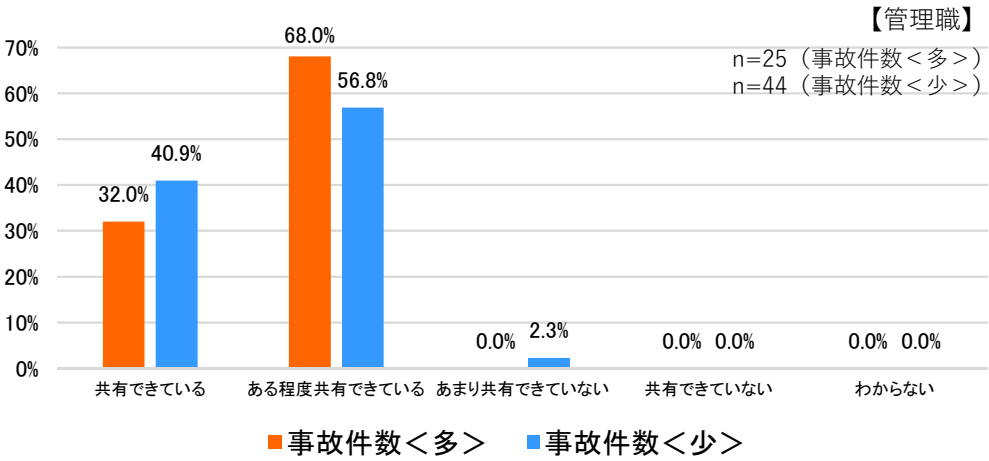
教育委員会との打合せの前に、学校管理職が、学校内で意見交換や情報共有する相手



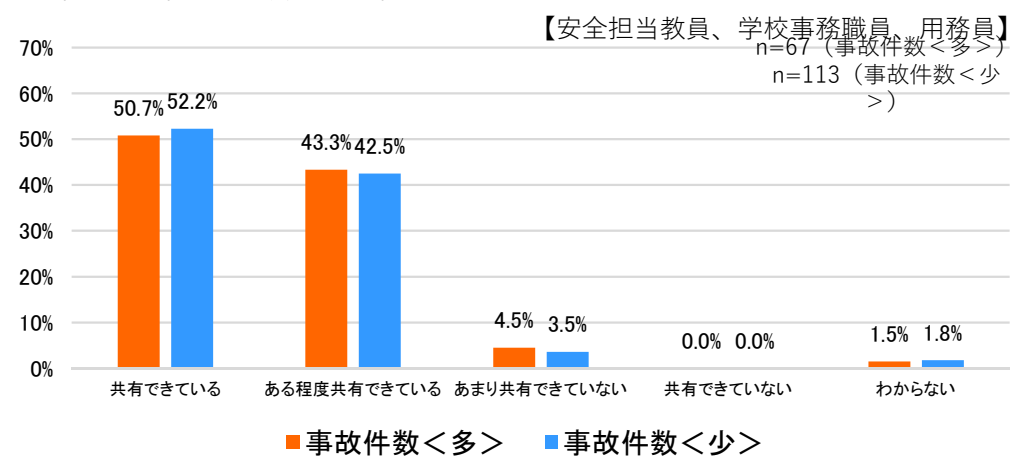
事故が少ない学校の方が、打合せの頻度が高い傾向

事故が少ない学校の方が、学校管理職が、教育委員会との打合せ前に学校内で意見交換や情報共有を行っている割合が高い傾向

学校管理職が、教育委員会と、学校施設の不具合に関する問題意識を共有できていると感じるか



管理職以外の教職員が、学校管理職と、学校施設の不具合に関する問題意識を共有できていると感じるか

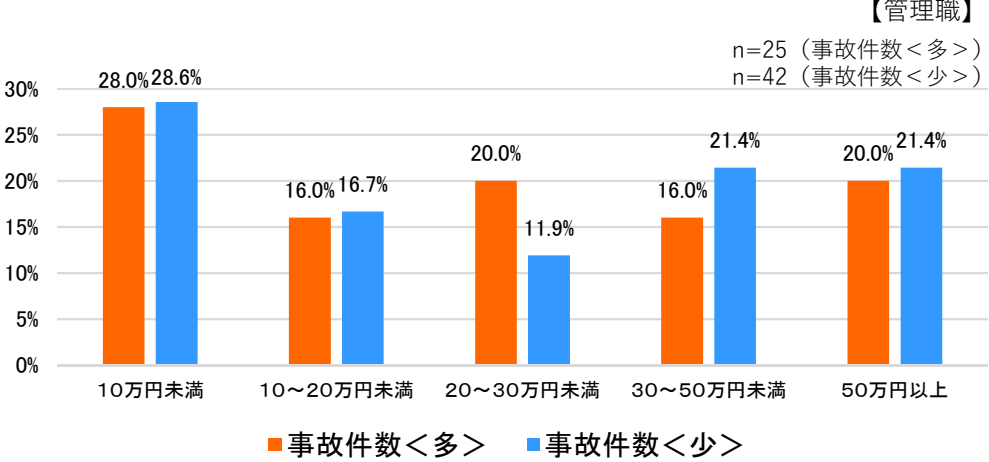


事故が少ない学校の方が、教育委員会と問題意識を共有できていると回答する割合が高い傾向

管理職以外の教職員が、管理職と問題意識を共有できていると回答する割合については、大きな差が見られなかった

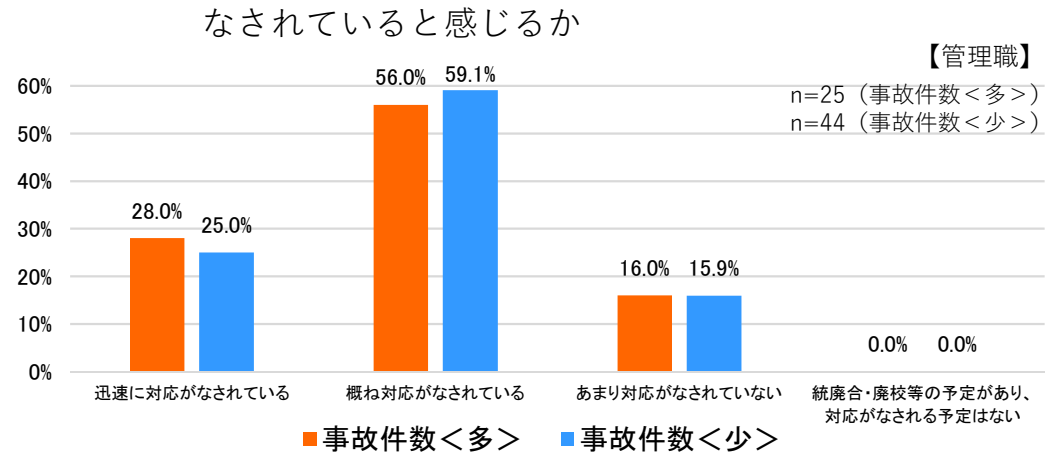
事故が多い学校と事故が少ない学校との間で差が見られた認識や取組

学校で執行可能な年間の修繕額



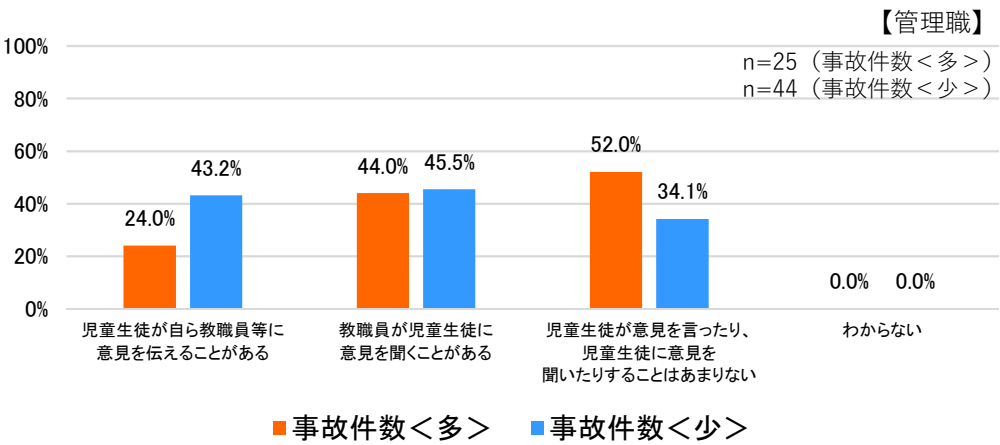
10万円未満が最も多く、次いで、事故が少ない学校では30～50万円未満、事故が多い学校では20～30万円未満が多かった

教育委員会に要望した学校施設の不具合の対応がなされていると感じるか



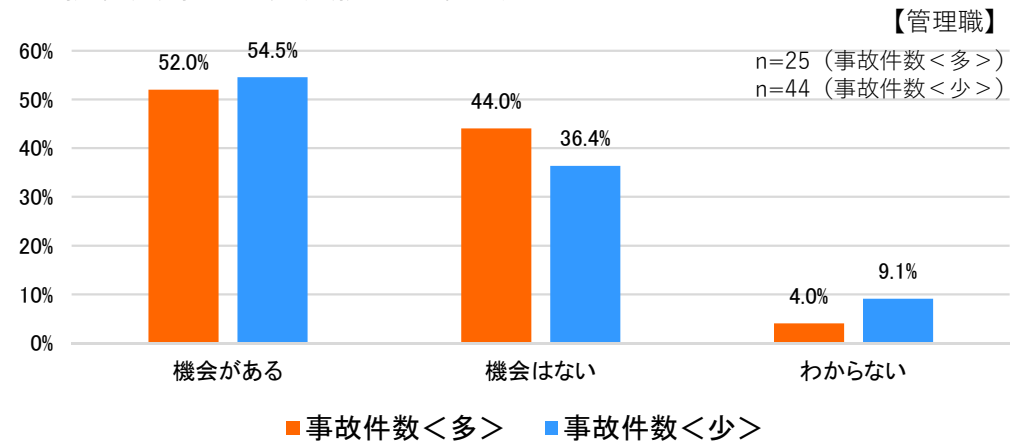
教育委員会に要望した学校施設の不具合の対応については、大きな差が見られなかった

学校施設の安全性の改善に関して、児童生徒と教職員等が意見交換する機会があるか



事故が少ない学校の方が、児童生徒が自ら教職員に意見を伝えることがある割合が高い傾向

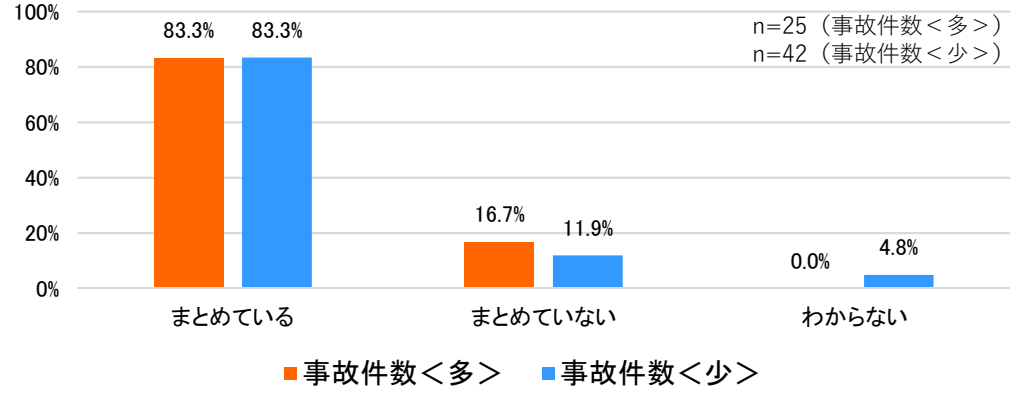
学校施設の安全性の改善に関して、保護者や地域住民と教職員等が意見交換する機会があるか



保護者や地域住民と教職員等が意見交換する機会の有無については、大きな差が見られなかった

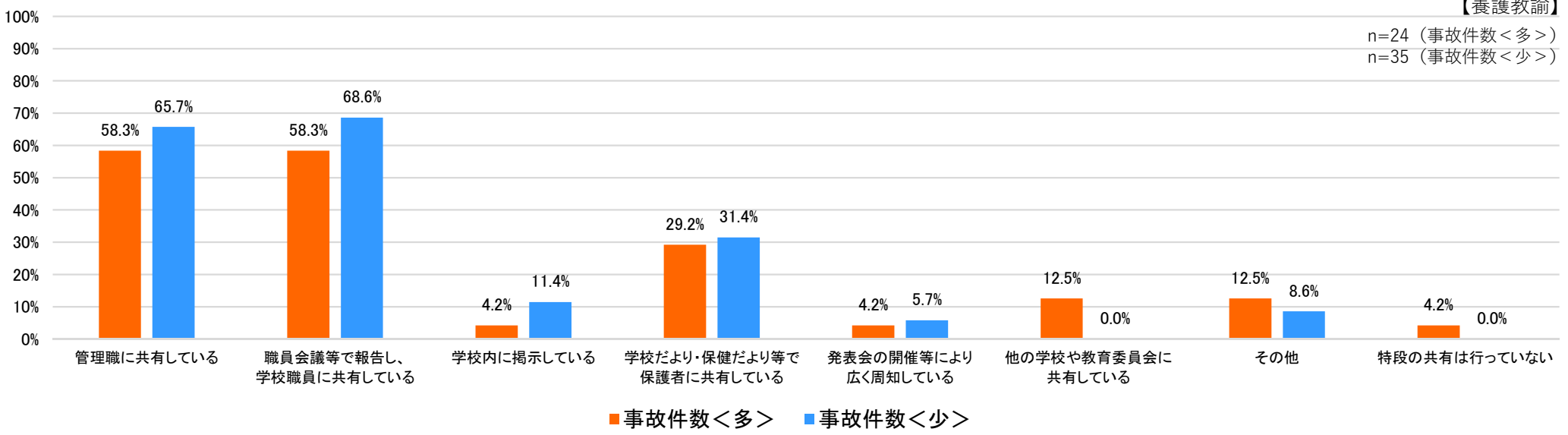
事故が多い学校と事故が少ない学校との間で差が見られた認識や取組

学校内で起きた児童生徒の怪我の状況をデータとしてまとめているか 【養護教諭】



学校内で起きた児童生徒の怪我の状況をデータとしてまとめているかについては、大きな差が見られなかった

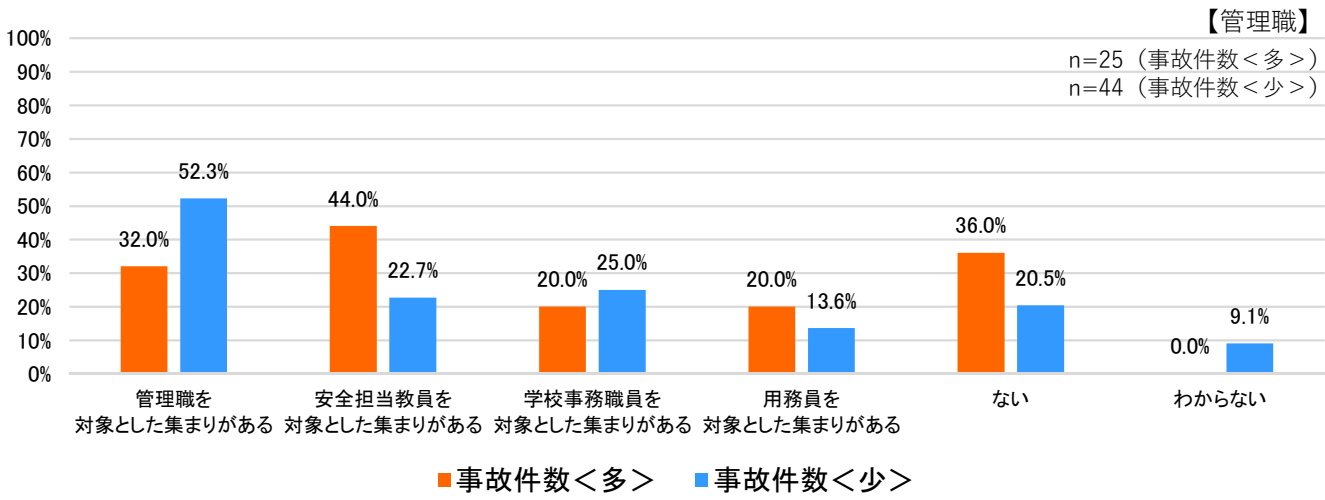
まとめたデータをどのように活用しているか 【養護教諭】



事故が少ない学校の方が、まとめたデータを管理職や教職員等に共有している割合が高い傾向

事故が多い学校と事故が少ない学校との間で差が見られた認識や取組

学校施設の安全・安心に関して、他校の教職員と情報交換する機会があるか

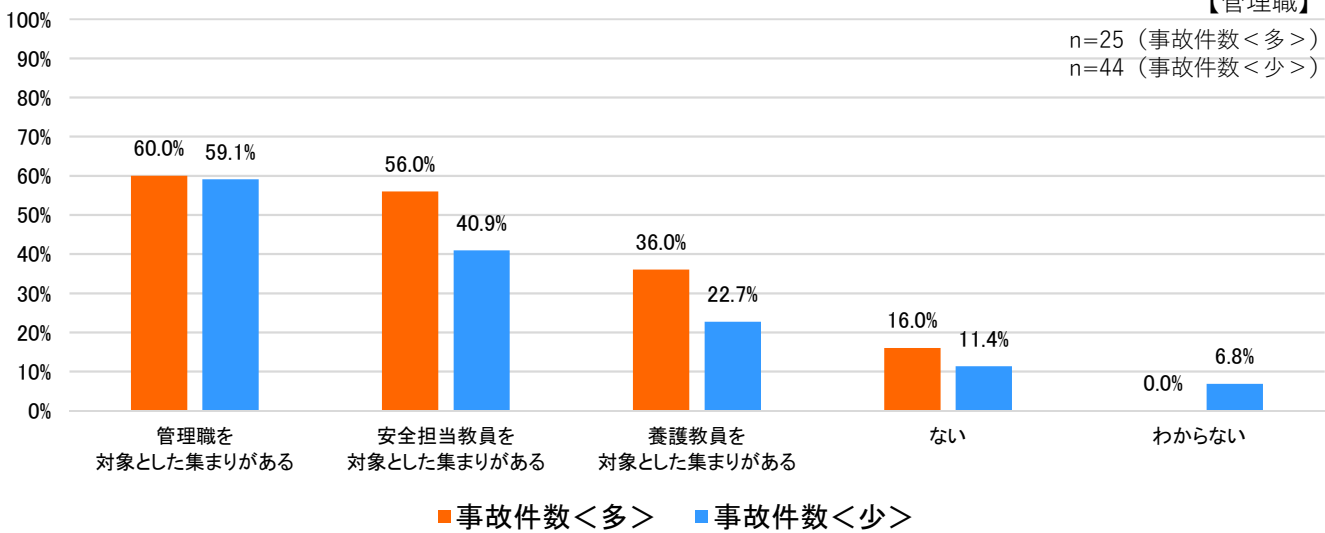


事故が少ない学校の方が、情報交換する機会が全くないと回答する割合が低い傾向

学校管理職や学校事務職員においては、事故が少ない学校の方が、情報交換する機会があると回答する割合が高い傾向

安全担当教員や用務員においては、事故が多い学校の方が、情報交換する機会があると回答する割合が高い傾向

安全教育に関して、他校の教職員と情報交換する機会があるか



事故が少ない学校の方が、情報交換する機会が全くないと回答する割合が低い傾向

安全担当教員や養護教員においては、事故が多い学校の方が、情報交換する機会があると回答する割合が高い傾向